

高崎市文化財調査報告書第 255 集

中居町一丁目遺跡 2

— 事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2010

高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第 255 集

中居町一丁目遺跡 2

—事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2010

高崎市教育委員会

例 言

1. 本書は、事務所建設に伴う中居町一丁目遺跡（高崎市遺跡番号 443）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在は、群馬県高崎市中居町一丁目 9 番地 2 である。
3. 発掘調査は、平成 21 年 6 月 8 日より平成 21 年 7 月 10 日まで実施した。
4. 本調査及び整理作業は、高崎市教育委員会が、委託契約を締結した株式会社歴史の杜の協力を得て実施した。
5. 発掘調査の体制は下記のとおりである。
高崎市教育委員会 田口一郎、須田 奈保子、角田真也
株式会社歴史の杜 調査担当 村上章義 事務担当 唐沢健二
6. 本書の編集は、村上が行なった。執筆はⅠを田口が、Ⅲを倉田と向出が、他を村上が行なった。
7. 本調査における図面・写真・遺物は、高崎市教育委員会で保管している。
8. 発掘調査及び整理調査に従事した作業員は、以下の通りである。（敬称略・五十音順）
発掘調査 石川照子、岩倉 保、岩倉洋子、加納文代、神沢昭三、武田茂子、戸張泰義、
長谷川 ツネ子、藤井昭男、榎田久雄
遺構実測 石川照子、加納文代、神沢昭三
遺物洗浄・注記 伊東 貴代子、入澤芳子、小淵幸子、木暮利夫、清水夏子、吉野賢次
遺物接合・復元 篠原信子、深井美紀
9. 報告書作成は、以下の体制で行なった。（敬称略・五十音順）
遺物実測 篠原信子、田中浩江、深井美紀
遺構・遺物図トレース 篠原信子、深井美紀
報告書レイアウト 篠原信子、深井美紀、向出博之、村上章義
遺物写真撮影 村上章義、山際哲章
10. 発掘調査の実施及び本書の刊行にあたり、上記の他に、下記の諸氏、諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。（敬称略・五十音順）
安生素明、小川朋恵、株式会社シン技術コンサル、株式会社測研、坂口 一

凡 例

1. 本書掲載の第 1 図は国土地理院発行 1/25,000 地形図「高崎」を、第 3 図は高崎市発行 1/2,500 「高崎市都市計画基本図」を、それぞれ使用した。
2. 遺構挿図の座標については、世界測地系（測地成果 2000）を使用した。図中に示した方位は、座標北である。
3. 土層および遺物の色調は、『新版標準土色帖』（2001 年版）による。
4. 本書における遺構種類の略号は、SI=竪穴住居跡、SK=土坑、Pit=ピット、SD=溝、SX=竪穴状遺構である。
5. 本書における火山噴出物（テフラ）の略号は、(As-)BP=浅間-板鼻褐色軽石、(As-)YP=浅間-板鼻黄色軽石、(As-)C=浅間Cテフラ、(As-)B=浅間Bテフラ、(As-)A=浅間Aテフラである。
6. 本書における S 字状口縁台付甕の略称は、S 字甕である。
7. 基本土層では、土壌学の累積土層（『土壌学と考古学』博友社、1987）と同様の考え方にたって、堆積層を大文字のローマ数字、土壌層位を大文字のアルファベットで続けて表現した。遺構埋没土層では、基本土層に対応する層以外の層に上から算用数字を付した。
8. 基本土層および遺構覆土の土層注記は、土壌調査で用いられる項目に基づき、以下の書式で記載した。
層番号 ①土色(色相 明度/彩度)②粒径③土性④粘着性⑤可塑性⑥土壌硬度⑦混入物
9. 遺物観察表中の口径等の法量の数値は、それぞれ接地点からの距離である。単位は「cm」である。
10. 抄録における北緯と東経の記載の書式は、DMS形式(degree度)である。
11. 遺物挿図において、須恵器の断面を黒塗りで表現した。
12. 遺構挿図における「HP」、「HP´」は、平板測量時において基準として使用した仮座標を示している。

目次

例言

凡例

I. 調査に至る経緯	1
II. 調査の方法と経過	1
III. 遺跡の立地と環境	1
IV. 基本層序	3
V. 検出された遺構と遺物	5
1. 第1面(IV層上面)の遺構	5
2. 第2面(V層上面)の遺構	7
3. 第3面(VI層上面)の遺構	7
VI. まとめ	11
写真図版	
抄録	

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図	2
第2図 基本層序	3
第3図 調査区位置図	3
第4図 第1面遺構平・断面図	4
第5図 第2面遺構平・断面図	6
第6図 第3面遺構平・断面図	8
第7図 第3面遺構断面図	9
第8図 SI-1平・断面図	10
第9図 SX-3遺物出土状況	12
第10図 SD-14・SD-18・SD-21出土遺物図	13
第11図 SX-1・SX-2出土遺物図	13
第12図 SX-3出土遺物図	14
第13図 SX-4・SX-5出土遺物図	15
第14図 SD-28出土遺物図(1)	16
第15図 SD-28出土遺物図(2)	17
第16図 SI-1出土遺物図	18
第17図 第3面遺構外出土遺物図	18

表目次

第1表 SD-14出土遺物観察表	13
第2表 SD-18出土遺物観察表	13
第3表 SD-21出土遺物観察表	13
第4表 SX-1出土遺物観察表	14
第5表 SX-2出土遺物観察表	14
第6表 SX-3出土遺物観察表	15
第7表 SX-4出土遺物観察表	15
第8表 SX-5出土遺物観察表	15
第9表 SD-28出土遺物観察表(1)	17
第10表 SD-28出土遺物観察表(2)	18
第11表 SI-1出土遺物観察表	18
第12表 第3面遺構外出土遺物観察表	18

I. 調査に至る経緯

平成21年2月、吉井 宏司氏（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に中居町一丁目に計画する事務所建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。

市教委は、該当地周辺において、区画整理事業や住宅建設に関わり古墳～平安時代の集落跡や中近世の館跡などが調査されており、周辺地域にも拡がる可能性が大きいことから、試掘調査による確認を行うことと、その結果による工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年2月27日付けで事業者より文化財保護法93条の発掘届及び試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年3月9日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳時代の溝跡や掘込み遺構を複数確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、株式会社歴史の杜に委託して実施することとなり、平成21年6月4日付けで高崎市長・事業者・歴史の杜の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成21年6月4日付けで事業者と歴史の杜の二者で発掘調査委託契約が締結された。

II. 調査の方法と経過

調査の方法 遺構確認面の検出は、第1面および第2面は重機によって行い、第3面は出土遺物が多量であったため人為によって行なった。遺構の掘削は、検出された各遺構の形態や大きさを考慮して適宜土層観察用のベルトを残し、土の堆積状況や遺物の出土状況に留意しながら行なった。遺構の記録は、遺構実測図作成及び写真撮影を実施した。遺構実測図は、比較的小規模な遺構や土層断面はレベルや平板などを用い、比較的大規模な遺構や土層断面は光波測距儀を用いて作成した。写真記録は、35mm小型一眼レフカメラを用いて、モノクロームネガ・カラーリバーサルフィルムの2種類を使用して撮影を行なった。遺物の採り上げは、原位置ないしそれに準ずる位置で出土していると判断したものは、平面図を作成し座標値と標高値を記録し、採番*して採り上げた。それ以外の遺物は、比較的大型の破片や床面に近い位置の出土など出土状況の良いものは、座標値と標高値を記録し採番して採り上げ、小破片や比較的高い位置の出土など出土状況の悪いものは、遺構の埋没土出土として一括して採り上げた。グリッドの設定は行わなかった。

* データ管理のために、それぞれのデータに固有の番号を与えること（『大辞林 第二版』）。numberingの訳語。

調査の経過 発掘調査は、平成21年6月8日より平成21年7月10日まで実施した。以下に調査経過の概略を記載する。

6月2日 高崎市教育委員会担当者と地権者・事業者と3者協議を行なった。

6月8日～6月12日 第1面（SD-1～12）調査。（8日 重機による表土はぎ。作業員雇用開始）

6月15日～6月24日 第2面（SD-13～25、SK-1）調査。（15日 重機による掘り下げ）

6月24日～7月10日 第3面（SI-1、SX-1～5、SD-26～28、SK-2～7、Pit 1～3）調査。（24日～26日 人為による掘り下げ）

7月10日 空撮。調査終了。

III. 遺跡の立地と環境

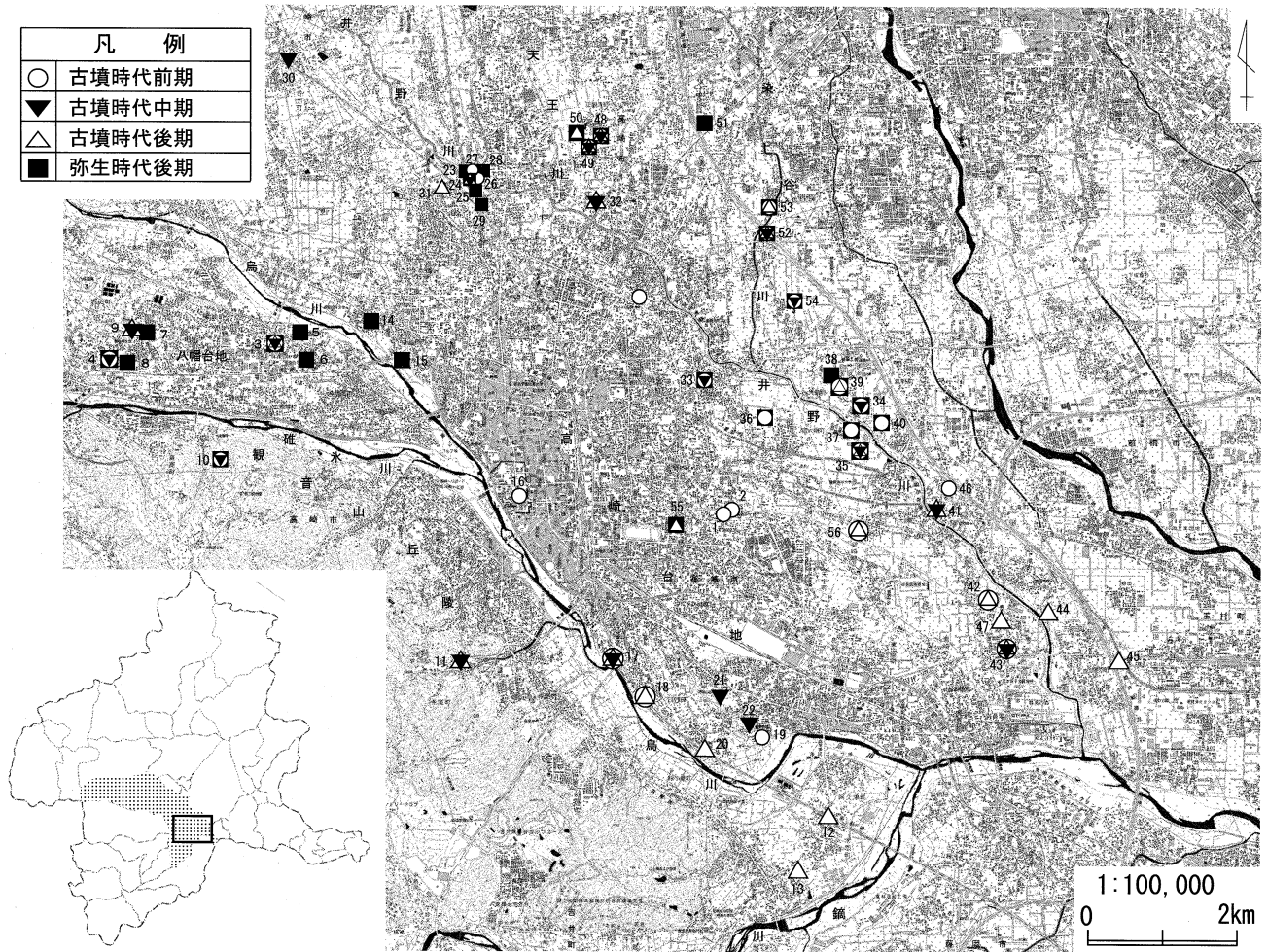
遺跡の位置と周辺の地形 本遺跡（1、2）は、高崎市内東部の中居町に所在し、高崎駅の東約2kmに位置する。遺跡は、井野川と烏川に挟まれた台地上にある微高地の一つに立地する。遺跡の周辺一帯は、前橋台地の一部である高崎台地と呼称される地形であり、原利根川の扇状地性堆積物の前橋砂礫層を基盤として、約2.1万年前に堆積した前橋泥流、約2万年前に降下したAs-BP、約1.3万年前に降下したAs-YP、約1.2万年前に堆積した高崎泥流などによって形成されたものである。遺跡のある微高地周辺の台地は、多数の小河川が流れ、微高地と低湿地とが入り組んだ複雑な地形となっている。本調査地点（1）の北東に隣接する2005年度に群馬県埋蔵文化財調査事業団によって調査が行われた本遺跡の第1次調査地点（2）は微高地の縁辺部に立地し、その東側は低湿地帯が広がっている。

周辺の遺跡 本遺跡の所在する高崎市は、弥生時代後期から古墳時代前期における群馬県内の地域区分によると、井野川流域に区分される（若狭1990、深沢1998）。この流域は、群馬県内において当該時期の土器編年が最も進められた区域でもある（深沢1998）。『新編高崎市史』では、さらに碓氷川や烏川、天王川、染谷川などの河川を中心に細分されている（市史編さん委員会2000、2003）。本遺跡は、この細分区域のうち、高崎台部に区分される。

烏川と碓氷川に挟まれた八幡台地では、弥生時代後期に集落が出現した引間遺跡（3）と八幡遺跡（4）で古墳時代後期まで集落が存続し、弥生時代後期に引間Ⅳ、引間Ⅴ、八幡六枚、八幡二子塚遺跡（5～8）で一時的に住居がみられ、古墳時代中期以降に八幡中原遺跡（9）で集落がみられる。観音山丘陵では、弥生時代後期に碓氷川右岸の少林山台遺跡（10）で集落が出現し、古墳時代中期に烏川右岸中流の寺尾東館遺跡（11）で、後期に烏川右岸下流の田端遺跡（12）、山名戸矢遺跡（13）で新たに集落が出現する。烏川左岸は、弥生時代後期に上流の上並榎屋敷前遺跡（14）、上並榎南遺跡（15）で、古墳時代前期に中流の高崎城Ⅲ遺跡（16）で集落が出現するが一時的であり、下流では、

同じく前期に成立した上佐野舟橋遺跡(17)、下佐野Ⅰ遺跡(18)で古墳時代後期まで集落が展開し、前期の倉賀野万福寺Ⅰ・Ⅱ遺跡(19)、後期の下佐野Ⅱ遺跡(20)に集落が拡大する中で、中期に浅間山古墳(21)、大鶴巻古墳(22)といった大型前方後円墳がつけられた。井野川流域は、上流域で弥生時代後期に熊野堂遺跡(23～25)で集落が出現し、古墳時代に大八木熊野堂遺跡(26・27)に展開して古墳時代後期まで集落が存続する。弥生時代後期に雨壺、融通寺遺跡(28・29)で、古墳時代中期に行力春名社、芦田貝戸Ⅱ遺跡(30・31)で一時的に住居がみられ、古墳時代中期以降に小八木Ⅰ遺跡(32)で集落がみられる。中下流域では、弥生時代後期より上大類北宅地遺跡(33)、鈴ノ宮遺跡(34)、高崎情報団地遺跡(35)で古墳時代後期まで集落が展開する。宿大類村西、万相寺、矢島竹之内、矢島町薬師、元島名、元島名下河原、綿貫、不動山東、下滝赤城、八幡原稲荷遺跡(36～45)で断続的に集落が営まれ、古墳時代前期に元島名将軍塚古墳(46)、後期には観音山古墳(47)がつけられた。天王川流域では、弥生時代後期以降、正観寺遺跡群(48～50)が継続している。染谷川流域では、弥生時代後期に日高遺跡(51)で住居がみられるが、新保、新保田中村前、西島相ノ沢遺跡(52～54)で古墳時代後期まで集落が展開されている。高崎台地では、弥生時代後期に高関村前遺跡(55)で新たに集落が出現し、続く古墳時代前期には、本遺跡第1次調査地点(2)、柴崎遺跡群Ⅴ(56)で集落が展開する。居住域ではないものの、本調査地点(1)もこの時期に利用が開始されている。中期の様相は不明であるが、後期には再びこれらの遺跡で集落が出現する。

集落遺跡の分布は、古墳時代を通じて次第に井野川と烏川の下流域に拡大している。このような大勢のなかで、6世紀末～7世紀初めに本調査地点で住居が出現することが位置付けられる。



- 1・本調査地点(中居町一丁目遺跡第2次調査地点) 2・本遺跡第1次調査地点 3・引間遺跡 4・八幡遺跡 5・引間Ⅳ遺跡 6・引間Ⅴ遺跡 7・八幡六牧遺跡 8・八幡二子塚遺跡 9・八幡中原遺跡
 10・少林山台遺跡 11・寺尾東館Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡 12・田端遺跡 13・山名戸矢遺跡 14・上並複屋敷前遺跡 15・上並複南遺跡 16・高崎城Ⅲ遺跡 17・上佐野舟橋遺跡 18・下佐野遺跡 19・倉賀野万福寺Ⅰ・Ⅱ遺跡
 20・下佐野Ⅱ遺跡 21・浅間山古墳 22・大鶴巻古墳 23・熊野堂第Ⅰ地区遺跡 24・熊野堂第Ⅱ地区遺跡 25・熊野堂第Ⅲ地区遺跡 26・大八木熊野堂Ⅰ遺跡 27・大八木熊野堂Ⅱ遺跡 28・雨壺遺跡 29・融通寺遺跡 30・行力春名社遺跡 31・芦田貝戸Ⅱ遺跡 32・小八木Ⅰ遺跡 33・上大類北宅地遺跡 34・鈴ノ宮遺跡 35・高崎情報団地遺跡 36・宿大類村西遺跡 37・万相寺遺跡 38・矢島竹之内遺跡 39・矢島町薬師遺跡 40・元島名遺跡 41・元島名下河原遺跡 42・綿貫遺跡 43・不動山東遺跡 44・下滝赤城遺跡 45・八幡原稲荷遺跡 46・元島名将軍塚古墳 47・観音山古墳 48・正観寺遺跡群Ⅰ 49・正観寺遺跡群Ⅱ 50・正観寺遺跡群Ⅲ 51・日高遺跡 52・新保遺跡 53・新保田中村前遺跡 54・西島相ノ沢遺跡 55・高関村前遺跡 56・柴崎遺跡群Ⅴ

第1図 周辺遺跡分布図

IV. 基本層序

本調査地点は、高崎泥流上に形成されたローム層を最下層とする。調査では、試掘調査の成果に基づき、I層からIII層まで重機による除去を行なったため、I層からIII層まで表土層として扱った。

I層・・・母材のAs-A(I C層)と現代耕作土(I A層)に分かれる。II層との間に部分的にAs-Aを挟むことからAs-A混土を主体とすると考えられる。現代の耕作によって、II A層の上部とI C層を攪拌して生成されたと考えられる。

II層・・・水田土壌によくみられる鉄・マンガ酸化集積層(II B 1層)を間に挟む作土(II A層)と心土(II B 2層)に分かれる。作土と心土の間に鉄・マンガ酸化集積層を形成する土壌断面は、表面水型水田土壌と呼称されている水田に特有の土壌である(松井 1988)。I A層との間にAs-Aを挟み、下層にAs-B(III C層)が認められることから、層序に乱れがなければ、近世の水田土壌と考えられる。

III層・・・母材のAs-B(III C層)とその攪拌土(III A層)に分かれる。基本土層断面ではみられないが、SD-12の範囲内で比較的良好な状態でAs-Bの堆積が確認されたため、III C層は四層に細分される(第4図中のSD-5・6断面図)。上からBスコリア上部(III C 1層)、ピンクアッシュ(III C 2層)、酸化Bスコリア下部(III C 3層)、未酸化のBスコリア下部(III C 4層)である。Bスコリア上部とピンクアッシュは、As-B混土層(III A層)の形成に伴う攪拌により部分的な残存にとどまるものの、III C 3層の直上で確認されている。

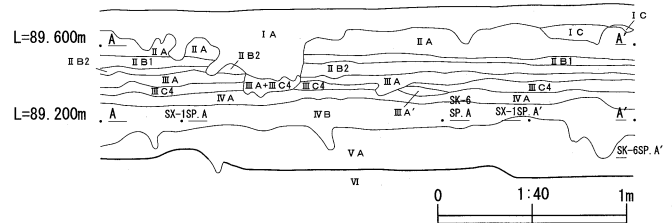
IV層・・・黒色の粘質土(IV A層)と灰色の粘質土(IV B層)に分かれる。このような下層土が弱還元して灰色を呈する土壌断面は、地下水位が比較的高い土壌にみられる。灰色沖積土と呼称され主に水田に利用される(松井 1988)が、IV A層の上面(第1面)では畦畔など水田の痕跡は確認できなかった。

V層・・・黒色の粘質土(V A層)と褐色の粘質土(V B層)に分かれる。As-Cの混入は認められなかった。主に古墳時代前期の遺物を包含する。SI-1、SX-1～5、SD-28の埋没土でもある。

V層上面を第2面とした。

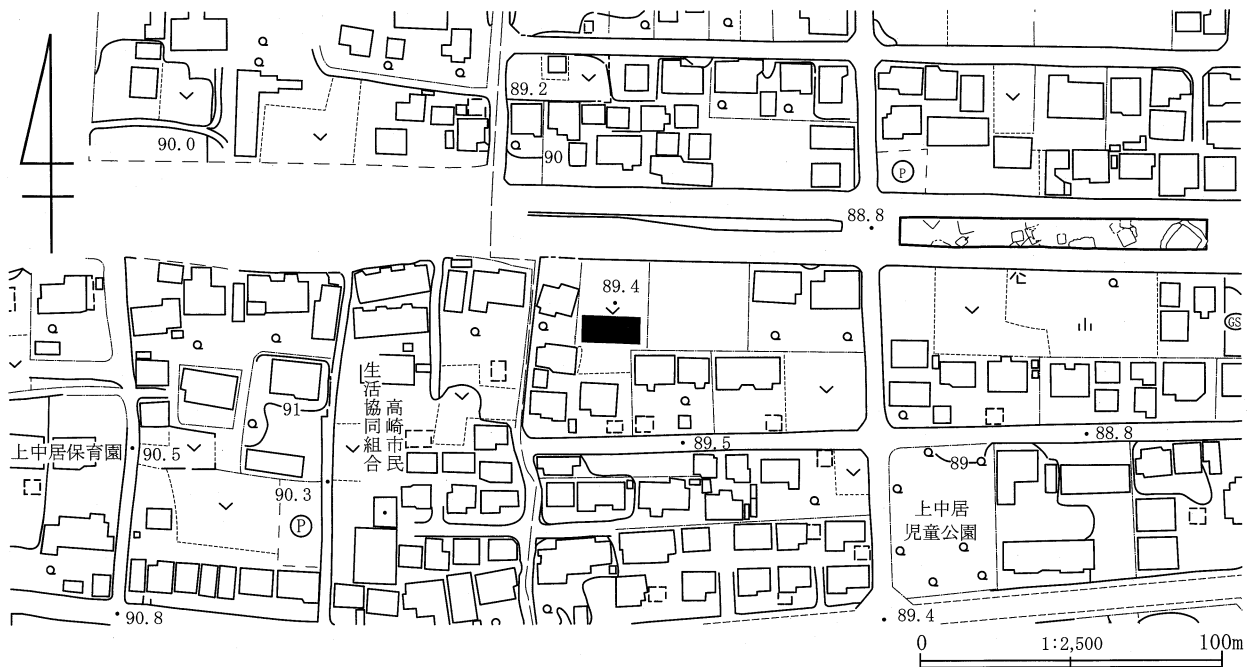
VI層・・・ローム漸移層。VI層上面を第3面とした。

VII層・・・ローム層。

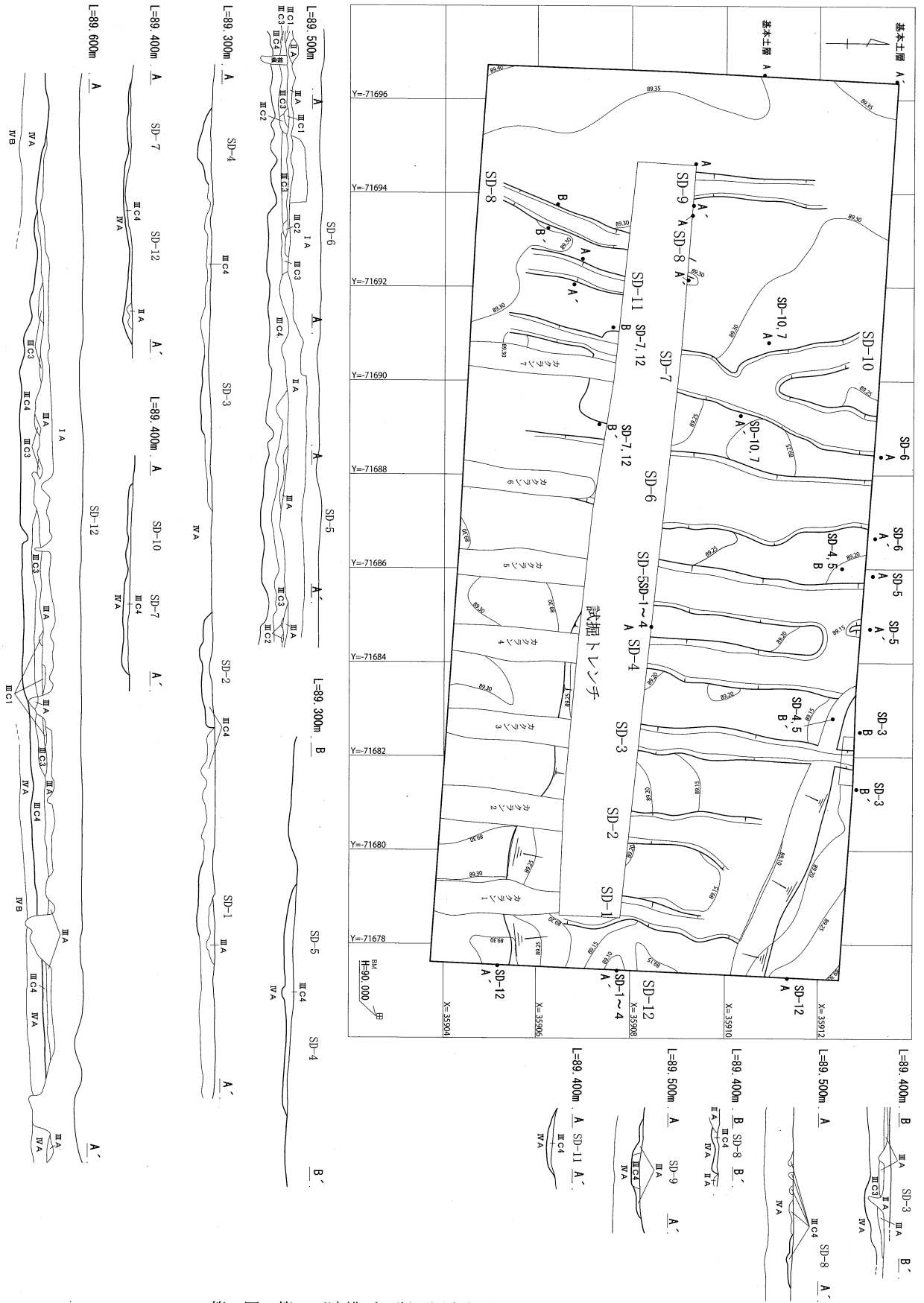


- I A ①灰白色(Hue2.5Y 7/1) ②シルト③SL ④なし⑤なし⑥堅⑦灰白色(Hue10YR 8/1)粒子(ϕ 0.05-0.5cm)を3-5%含む。
- I C ①淡黄色(Hue5Y 8/3) ②砂 ③S ④なし⑤なし⑥堅⑦灰色(HueN 5)スコリア(ϕ 0.05-0.2cm)を20-30%含む。
- II A ①灰黄色(Hue2.5Y 7/2) ②シルト③SL ④なし⑤なし⑥堅⑦灰白色(Hue10YR 8/1)粒子(ϕ 0.05-0.8cm)を2-3%含む。
- II B1 ①明赤褐色(Hue5YR 5/6)
- II B2 ①灰黄褐色(Hue10YR 4/2)②シルト③SiL④弱 ⑤弱 ⑥堅⑦灰白色(Hue10YR 8/1)粒子(ϕ 0.065-0.1cm)を含む。
- III A ①褐灰色(Hue10YR 4/1) ②シルト③SL ④なし⑤なし⑥堅⑦灰白色(Hue10YR 8/1)粒子(ϕ 0.05-0.1cm)を1-2%含む。
- III A' ①灰褐色(Hue7.5YR 4/2)②シルト③SL ④なし⑤なし⑥堅⑦灰白色(Hue10YR 8/1)粒子(ϕ 0.05cm以下)を40-50%含む。
- III C ①淡黄色(Hue5Y 8/3) ②バミス③S ④なし⑤なし⑥堅 ⑦灰色(HueN 5)スコリア(ϕ 0.05-0.1cm)を30-40%含む。灰色(HueN 6)アッシュ(ϕ 0.05cm以下)を3-5%を含む。
- IV A ①黒褐色(Hue10YR 3/2) ②シルト③SiL④弱 ⑤中 ⑥軟⑦灰白色(Hue10YR 8/1)粒子(ϕ 0.03-0.1cm)を1-2%含む。
- IV B ①褐灰色(Hue10YR 6/1) ②シルト③SiL④弱 ⑤中 ⑥堅⑦-
- V A ①黒褐色(Hue10YR 3/1) ②シルト③CL ④中 ⑤中 ⑥堅⑦灰黄褐色(Hue10YR 6/2)粒子(ϕ 0.045-0.08cm)を1-3%含む。
- VI ①灰黄褐色(Hue10YR 4/2)②シルト③CL ④中 ⑤中 ⑥堅⑦灰黄褐色(Hue10YR 6/2)粒子(ϕ 0.17-0.18cm)を1-3%含む。

第2図 基本層序



第3図 調査区位置図



第4図 第1面遺構平・断面図(平面図S=1:120, 断面図S=1:40)

V. 検出された遺構と遺物

今回の調査では3面の調査を行なった。検出された遺構は、溝28条、堅穴住居跡1軒、堅穴状遺構5基、土坑7基、ピット3基であった。遺物は、溝および堅穴状遺構、堅穴住居跡からの出土を中心に、S字甕を主とする古墳時代前期の土師器等、破片数にして数百点が出土した。このうち、原位置ないしそれに準ずる位置で出土していると判断されたものと出土状況の良いものを中心に、各遺構の遺物の出土傾向を示すものを78点掲載した。

1. 第1面(IV層上面)の遺構

1～11号溝(SD-1～11、第4図)

調査区の全体にほぼ南北の方向で検出された。試掘調査においてAs-B下面で確認された溝と一致する。ほぼ一定の間隔で並ぶ。幅は基本的に狭く、深さは非常に浅い。底面に凹凸があり、一般的に川砂と呼ばれる細かな砂礫の堆積も認められないことから、水路であったとは考えにくい。試掘調査では耕作痕との所見であった。本調査における注目すべき点は、試掘トレンチを挟んだ南側で検出された溝状のカクランとSD-1～6がほぼ一致することである。カクランと溝との相違は、底面にAs-Bが残存しているか否かであったが、カクラン自体As-B層よりも下層まで掘り込まれているものの、北に向かうにつれ浅くなっており、これらの溝がカクランの一部である可能性は捨象できない。出土遺物は、第3面由来のS字甕を主とする古墳時代前期の土師器片が多く、溝に伴う遺物は認められなかった。土層断面中に下位層であるIV A層土がブロック状に認められたことから、少なくともAs-Bの降下以後に掘り込まれたものと考えられる。

12号溝(SD-12、第4図)

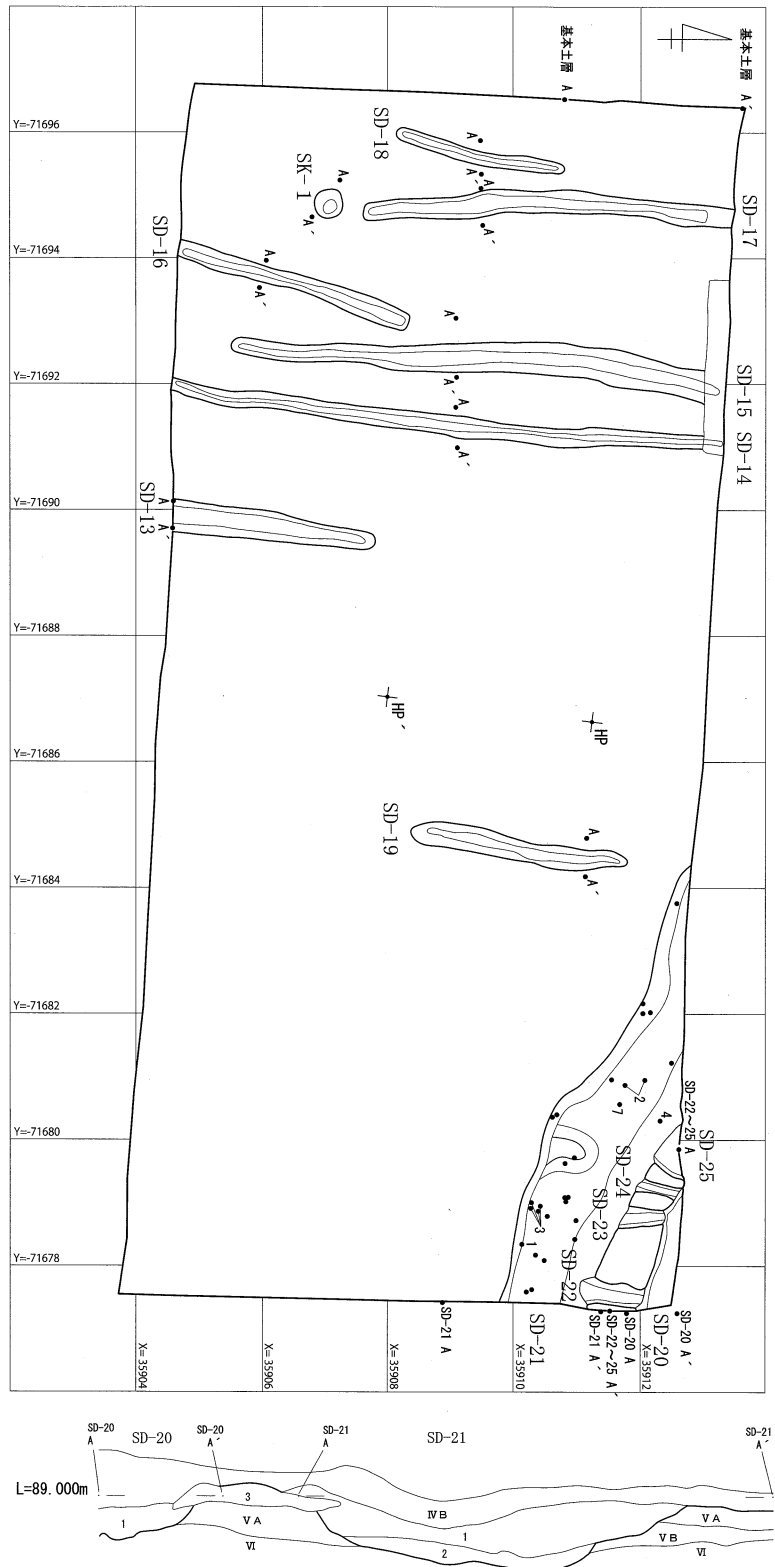
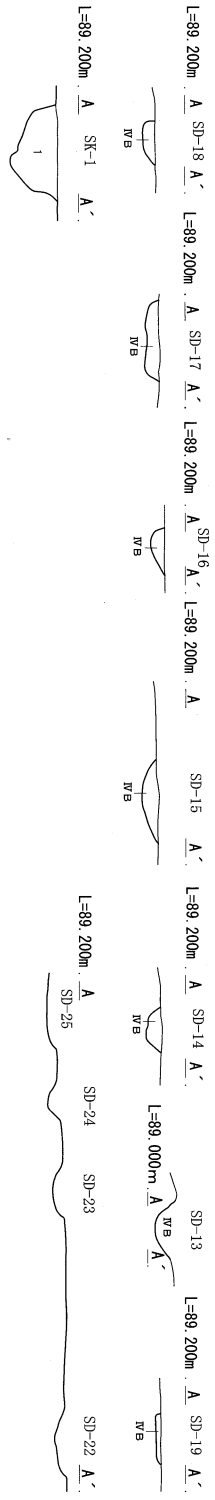
調査区の東半分で検出されたが、西半分では検出されなかった。北西方向から南東方向に向かう。溝の底面と南北の確認面との比高差が10～15cmある。SD-1～11と異なり、かなり幅広く比較的深い。同様に川砂の堆積は認められなかった。出土遺物は、SD-1～11と同様に第3面由来の古墳時代前期の土師器片が多く、溝に伴う遺物は認められなかった。SD-1～11と異なり、上位からの掘り込みは認められなかった。また、ある程度フォールユニットが特定できるほどAs-Bが最も良好に残存していたため、12号溝を埋没するAs-Bは純層であると考えられる。以上の点から、12号溝の帰属時期は、As-B降下以前であると考えられる。

第1面における西端と東端の比高差は5cm程度であり、西から東に緩やかに傾斜している。基本土層断面中の一部でAs-B層(ⅢC4層)とAs-B混土層(ⅢA'層)とが逆転していたため、基本土層断面付近ではAs-B下の面が削平されている可能性も考えられた。しかし、SD-12の範囲内ほどではないにしろ、As-Bが層状に堆積しており、As-B混土との逆転は基本土層中の一箇所に限られる。また、東半におけるSD-12の深さから逆算すると、少なくとも10cm以上削平したことになり、As-Bが層状に堆積していることと矛盾する。従って、削平されていないと判断した。加えて、土層断面において下層に落ち込みが認められ、実際に第3面の調査区の東端でSD-28が検出されたことを総合的に鑑みれば、As-B降下までに完全に埋没しなかった自然の落ち込みかもしれない。

第4図 土層注記

- SD-3 SP. B
ⅢA ①黒褐色(Hue10YR 3/1) ②シルト③SL④なし⑤なし⑥堅⑦—
ⅢC3 ①赤褐色(Hue2.5YR 4/6)②砂 ③S ④なし⑤なし⑥堅
⑦黄色(Hue2.5Y 8/6)パミス(φ0.05-0.1cm)・黒色(Hue2.5Y 2/1)スコリア(φ0.05cm以下)を30-40%含む。黒褐色(Hue2.5Y 3/1)シルトブロック(φ3.0-5.0cm)を7-10%含む。
にぶい黄褐色(Hue10Y 5/3)パミス(φ0.5-1.2cm)をIV A直上に15%含む。灰白色(HueN 7/)アッシュをIV A直上に30-40%含む。
- SD-4・5
ⅢC4 ①明黄褐色(Hue2.5Y 7/6)②砂③S④なし⑤なし⑥堅⑦黒色(Hue2.5Y 2/1)スコリア(φ0.05-0.1cm)を30-40%含む。IV A層土ブロック(φ6.0cm)を1点含む。
- SD-5・6
I ①灰白色(Hue2.5Y 7/1) ②シルト③SL ④なし⑤なし⑥しょう⑦灰白色(Hue2.5Y 7/1)砂粒(φ0.04-0.7cm)を30-40%含む。
I ①灰黄色(Hue2.5Y 7/2) ②シルト③L ④弱 ⑤弱 ⑥軟 ⑦灰白色(Hue2.5Y 7/1)砂粒(φ0.04-0.7cm)を20-25%含む。
II ①浅黄色(Hue2.5Y 7/3) ②シルト③L ④弱 ⑤弱 ⑥堅
⑦浅黄色(Hue2.5Y 7/3)・淡黄色(Hue2.5Y 8/3)・黒色(HueN 2/)粒子(φ0.025-0.13cm)を15-20%含む。
III ①黒色(Hue10Y 2/1) ②シルト③SL ④なし⑤なし⑥堅
⑦黒色(Hue10Y 2/1)・淡黄色(Hue2.5Y 8/3)・赤褐色(Hue10R 6/8)粒子(φ0.04-0.06cm)を30-40%含む。
- ⅢC1 ①灰色(HueN 6/) ②シルト③SiL④弱 ⑤弱 ⑥堅 ⑦—
ⅢC2 ①にぶい橙色(Hue5YR 7/4)②シルト③L ④弱 ⑤弱 ⑥堅 ⑦淡黄色(Hue2.5Y 8/3)・赤褐色(Hue10R 6/8)粒子(φ0.035-0.05cm)を15-20%含む。
ⅢC3 ①明赤褐色(Hue5YR 5/6) ②砂 ③S ④なし⑤なし⑥堅 ⑦淡黄色(Hue2.5Y 8/3)・黒色(HueN 2)粒子(φ0.03-0.06cm)を30-40%含む。
ⅢC4 ①淡黄色(Hue2.5Y 8/3) ②砂 ③S ④なし⑤なし⑥堅 ⑦黒色(HueN 2/)粒子(φ0.03-0.055cm)を5-7%含む。
IV A ①褐灰色(Hue10YR 5/1) ②シルト③CL ④弱 ⑤強 ⑥堅 ⑦灰白色(Hue10YR 7/1)粒子(φ0.05-0.15cm)を5-7%含む。
- SD-8
ⅢC4 ①黄色(Hue2.5Y 8/6)②砂 ③S ④なし⑤なし⑥堅
⑦赤褐色(Hue2.5YR 4/6)パミス(φ0.05-0.1cm)を15-20%含む。黒色(Hue2.5Y 2/1)スコリア(φ0.05cm以下)を30-40%含む。IV A層土ブロック(φ10.0cm)を1点含む。
- SD-7・10
ⅢC4 ①黄色(Hue2.5Y 8/6)②砂 ③S ④なし⑤なし⑥堅
⑦赤褐色(Hue2.5YR 4/6)パミス(φ0.05-0.1cm)を15-20%含む。黒色(Hue2.5Y 2/1)スコリア(φ0.05cm以下)を30-40%含む。IV A層土ブロック(φ3.0-8.0-12.0cm)を3点含む。
- SD-11
ⅢC4 ①黄色(Hue2.5Y 8/6)②砂 ③S ④なし⑤なし⑥堅
⑦赤褐色(Hue2.5YR 4/6)パミス(φ0.05-0.1cm)を15-20%含む。黒色(Hue2.5Y 2/1)スコリア(φ0.05cm以下)を30-40%含む。IV A層土ブロック(φ5.0-7.0cm)を2点含む。

- SK-1
 1 ①に多い黄褐色 (Hue10YR 7/2) ②粘土 ③HC ④中⑤強⑥軟⑦—
 2 ①黒色 (Hue10Y 2/1) ②シルト③SiL④弱⑤中⑥堅⑦灰白色 (Hue10YR 8/2) 粒子 (φ 0.05—0.1cm) を3—5%含む。



- SD-20・21
 1 ①褐灰色 (Hue10YR 4/1) ②シルト③SiL④弱⑤中⑥軟⑦黄色 (Hue2.5 Y8/6) ローム粒子 (φ 0.08—0.5cm) を7—10%含む。
 2 ①褐灰色 (Hue10YR 4/1) ②シルト③CL ④中⑤中⑥堅⑦黄色 (Hue2.5YR 8/6) ロームブロック (φ 0.8—3.0cm) を15—20%含む。
 3 ①黒色 (Hue10YR 2/1) ②シルト③SiL④弱⑤中⑥堅⑦黄色 (Hue2.5YR 8/6) 粒子 (φ 0.1—0.4cm) を1—2%含む。

第5図 第2面遺構平・断面図 (平面図S=1:120, 断面図S=1:40)

2. 第2面（V層上面）の遺構

13～19号溝（SD-13～19、第5図）

主に調査区の西半でほぼ南北の方向で検出された。IV B層で埋没している。幅は狭く比較的深い。川砂の堆積は認められなかった。SD-1～12と同様に水路ではないと考えられる。出土遺物は、SD-1～12と同様に第3面由来の古墳時代前期の土師器片が多く、溝に伴う遺物は認められなかった。時期は正確には不明であるが、SD-21の土層断面からSD-13～19を埋没するIV B層がSD-21の埋没後に形成されたと考えられることから、平安時代中頃以降As-B降下以前であると考えたい。

20～25号溝（SD-20～25、第5図）

調査区の北東隅で検出された。SD-20、21は北西方向から南東方向に向かい、SD-22～25は南北方向に向かう。SD-20、21は幅が広く深い。SD-22～25は幅が狭く浅い。部分的な検出のため、正確な形状は不明であるが、SD-20、21は平行しているかもしれない。出土遺物は、SD-1～19と同様に第3面由来の古墳時代前期の土師器片が多いが、SD-21から自然釉のかかった須恵器壺片（No. 1）、須恵器坏片（No. 2）、高台皿（No. 3）など溝の埋没中に混入したと推定される遺物が認められた。須恵器坏片（No. 2）は、底部がやや小さく、口縁部が外反する。底部は回転糸切りで未調整である。高台皿（No. 3）は、酸化焰焼成の須恵器ないし土師質土器で、体部が浅く口縁部が外反する。内面は炭素が吸着し黒色を呈する。これらの遺物から、SD-21の埋没年代は9世紀後半から10世紀ごろと考えたい。

1号土坑（SK-1、第5図）

調査区の南西部で検出された。IV B層で埋没している。平面形状は円形、断面形状は不整逆台形である。遺物は出土しなかった。時期は不明であるが、検出状況からSD-1～19に近いと考えられる。

3. 第3面（VI層上面）の遺構

1～5号竪穴状遺構（SX-1～5、第6図）

当初、遺物が集中し、かつ長方形のプランが観察された箇所を竪穴住居跡として調査を行なった。しかし、遺物を採番して採り上げた後に掘削を行なったところ、遺構が非常に浅く、明瞭な掘り込みが確認できず、硬化した床面や炉・カマドなど住居と認定できる証拠も認められなかった。よって、これらの遺構を、住居跡ではなく竪穴状遺構として報告する。

SX-1は、調査区の西壁際の北端寄りにて検出された。VA層で埋没している。SK-6と重複するが、埋没土に違いがなく、切り合い関係は不明である。遺構の大半が調査区外にあるため、正確な形状は不明であるが、方形ないし長方形を呈すると推定される。深さは、最深で10cmである。遺物の出土はわずか3点であり、実測に耐える土師器壺口縁部片（No. 1）のみ掲載した。

SX-2は、調査区の北壁際の中央にて検出された。VA、VB層で埋没している。SI-1、SX-5と重複し、これに切られる。SX-5とは埋没土に大きな違いがない。SX-5に切られ、北半が調査区外にあるため、正確な形状は不明であるが、隅丸方形ないし隅丸長方形を呈すると推定される。深さは、最深で14cmである。南西辺際に灰層が認められた。数十点出土した遺物のうち、土師器S字甕片（No. 1～4）、須恵器坏底部片（No. 5）を掲載した。

SX-3は、調査区の南壁際の東寄りにて検出された。VA、VB層で埋没している。SX-4、SD-28と重複するが、埋没土に違いがなく、切り合い関係は不明である。北辺を試掘トレンチに切られている。試掘トレンチに切られ、南半が調査区外にあるため、正確な形状は不明であるが、方形ないし長方形を呈すると推定される。深さは、最深で15cmである。本調査地点で唯一遺物が集積された状態で出土しており、かなりの程度まで復元できた（No. 2～4、6、7）。百数十点出土した遺物のうち、土師器S字甕（No. 1、2、4、8）、土師器直口壺（No. 3、7、9）、土師器壺（No. 5、6）、須恵器坏底部片（No. 10）を掲載した。

SX-4は、調査区の南壁際の中央にて検出された。VA、VB層で埋没している。SX-3と重複するが、埋没土に違いがなく、切り合い関係は不明である。SK-5と重複し、これに切られる。南半が調査区外にあるため正確な形状は不明であるが、方形ないし長方形を呈すると推定される。深さは、最深で10cmである。西隅に小穴を2基有する。出土した遺物が比較的少なく、実測に耐える土師器S字甕口縁部片（No. 1）のみ掲載した。

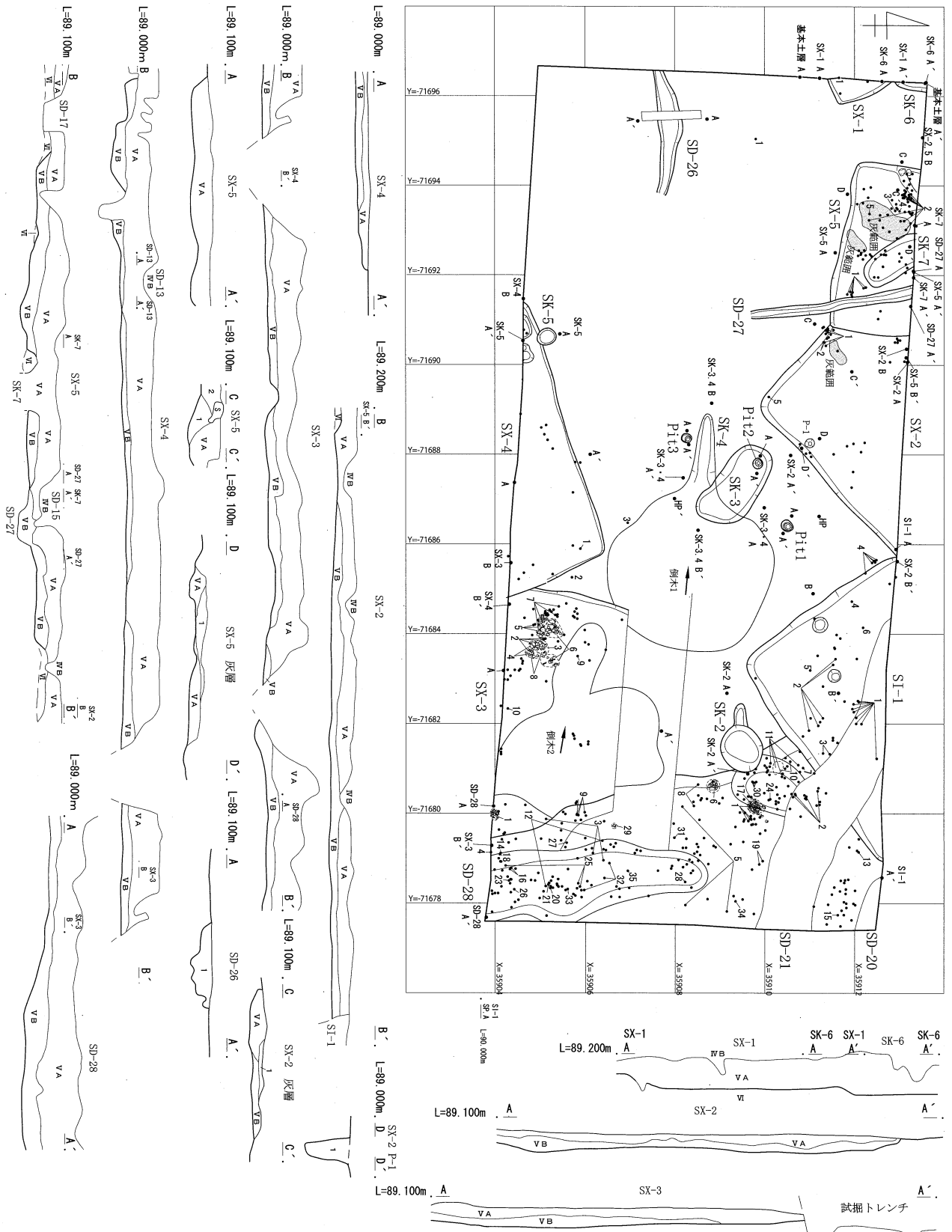
SX-5は、調査区の北壁際の西寄りにて検出された。VA、VB層で埋没している。SX-2と重複し、これを切るが、埋没土に大きな違いがない。SD-27、SK-7に切られる。北半が調査区外にあるため、正確な形状は不明であるが、隅丸方形ないし隅丸長方形を呈すると推定される。深さは、最深で15cmである。中央にて灰層が認められた。西辺際から被熱した痕跡のある砂岩が出土したが、周辺の土に焼土は認められなかった。百数十点出土した遺物のうち、土師器広口壺（No. 1）、土師器台付甕（No. 2）、土師器S字甕（No. 3、4）、土師器小型丸底土器（No. 5）を掲載した。

2～7号土坑（SK-2～7、第6・7図）

SK-2は調査区の東部で検出された。平面形状は楕円形、断面形状は浅い碗形である。SD-28を切る。西方向に帯状に伸びるため、倒木の可能性がある。

SK-3は調査区の中央部で検出された。平面形状はやや不整な長楕円形、断面形状は浅い逆台形である。SK-4を切る。

SK-4は調査区の中央部で検出された。SK-3に切られる。掘削した結果、東に隣接する倒木の幹部分と判明した。



第6図 第3面遺構平・断面図 (平面図S=1:120, 断面図S=1:40)

第6図 土層注記

SX-2 P-1

1 ①褐灰色 (Hue10YR 4/1) ②シルト③CL④中⑤中⑥軟⑦黒色 (Hue10YR 2/1) ブロック (φ0.5-1.0 cm) を5-7%含む。

SX-2・5 灰層

1 ①黒色 (HueN 2/) ②シルト③CL④中⑤中⑥しょう⑦-

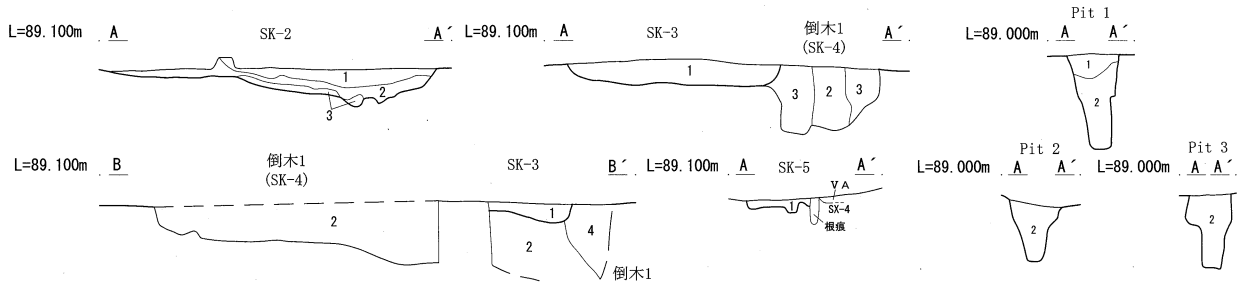
2 ①黒褐色 (Hue7.5Y 3/1) ②シルト③CL④中⑤中⑥軟 ⑦砂礫 (φ6.7 cm) を3-5%含む。灰白色 (Hue10YR 8/1) 粒子 (φ0.04-0.14 cm) を5-7%含む。

SX-5 SP.C

1 ①灰褐色 (Hue7.5YR 5/2) ②シルト③SiL④中⑤中⑥堅⑦明赤褐色 (Hue5YR 5/8) シルトブロック (φ0.5-1.0 cm) を3-5%含む。

SD-26

1 ①黒色 (Hue10Y 2/1) ②シルト③SiL④弱⑤弱⑥軟⑦灰白色 (Hue10YR 8/1) 粒子 (φ0.05-0.16 cm) を5-7%含む。



SK-2

1 ①黄灰色 (Hue2.5YR 5/1) ②シルト③CL ④弱⑤弱⑥すこぶる堅⑦灰白色 (Hue10YR 8/1) 粒子 (φ0.055-0.5 cm) を10-15%含む

2 ①黒褐色 (Hue2.5YR 3/1) ②シルト③SiL④弱⑤弱⑥堅 ⑦淡黄色 (Hue2.5 Y8/3) 粒子 (φ0.05-0.6 cm) を3-5%含む。

3 ①黒褐色 (Hue2.5Y 3/1) ②シルト③SiL④弱⑤中⑥軟

⑦淡黄色 (Hue2.5 Y8/4) ロームブロック (φ0.5-1.0 cm) を5-7%含む。にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/3) ブロック (φ1.0-2.0 cm) を20-30%含む。

SK-3・4

1 ①黒褐色 (Hue2.5Y 3/1) ②シルト③SiL④弱⑤中⑥軟

⑦灰白色 (Hue10YR 8/1) 粒子 (φ0.045-0.1 cm) を2-3%含む。浅黄色 (Hue2.5 Y7/3) シルトブロック (φ4.0-12.0 cm) を20-30%含む。

2 ①黒色 (Hue10YR 2/1) ②シルト③CL ④中⑤中⑥しょう⑦灰白色 (Hue10YR 8/1) シルト粒子CL (φ0.07-0.2 cm) を3-5%含む。

3 ①黒褐色 (Hue2.5YR 3/2) ②シルト③CL ④中⑤中⑥軟 ⑦灰白色 (Hue10YR 8/1) 粒子 (φ0.07-0.2 cm) を3-5%含む。

4 ①にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/3) ②シルト③CL ④中⑤中⑥しょう⑦-

SK-5

1 ①黒色 (Hue10YR 2/1) ②シルト③CL④中⑤中⑥軟⑦灰白色 (Hue10YR 7/1) 粒子 (φ0.07-0.21 cm) を1-2%含む。

Pit1~3

1 ①褐灰色 (Hue10YR 5/1) ②シルト③CL④弱⑤中⑥軟 ⑦明黄褐色 (Hue10YR 6/8) ロームブロック (φ0.1-2.0 cm) を5-7%含む。

2 ①黒色 (Hue10YR 2/1) ②シルト③CL④弱⑤中⑥しょう⑦明黄褐色 (Hue10YR 6/8) ロームブロック (φ1.0-2.0 cm) を5-7%含む。

第7図 第3面遺構断面図 (S=1:40)

SK-5 は調査区の南壁際の中央にて検出された。平面形状は楕円形、断面形状は逆凸形である。SX-4 を切る。

SK-6 は調査区の北西隅で検出された。VA層で埋没している。SX-1 と重複するが埋没土に違いがなく、切り合い関係は不明である。大半が調査区外にあるため、正確な形状は不明である。曲線状のプランが確認されたため土坑として調査したが、掘削の結果、明瞭な掘り込みが認められた。遺構の壁の下半と底面が調査区外に位置するため、底面の状態は不明であるが、住居跡の可能性も考えられる。

SK-7 は調査区の北西部で検出された。VA層で埋没している。平面形状は長楕円形、断面形状は逆台形である。SX-5 を切る。遺物は、SX-5 由来の古墳時代前期の土師器片が多く、土坑に伴う遺物は認められなかった。

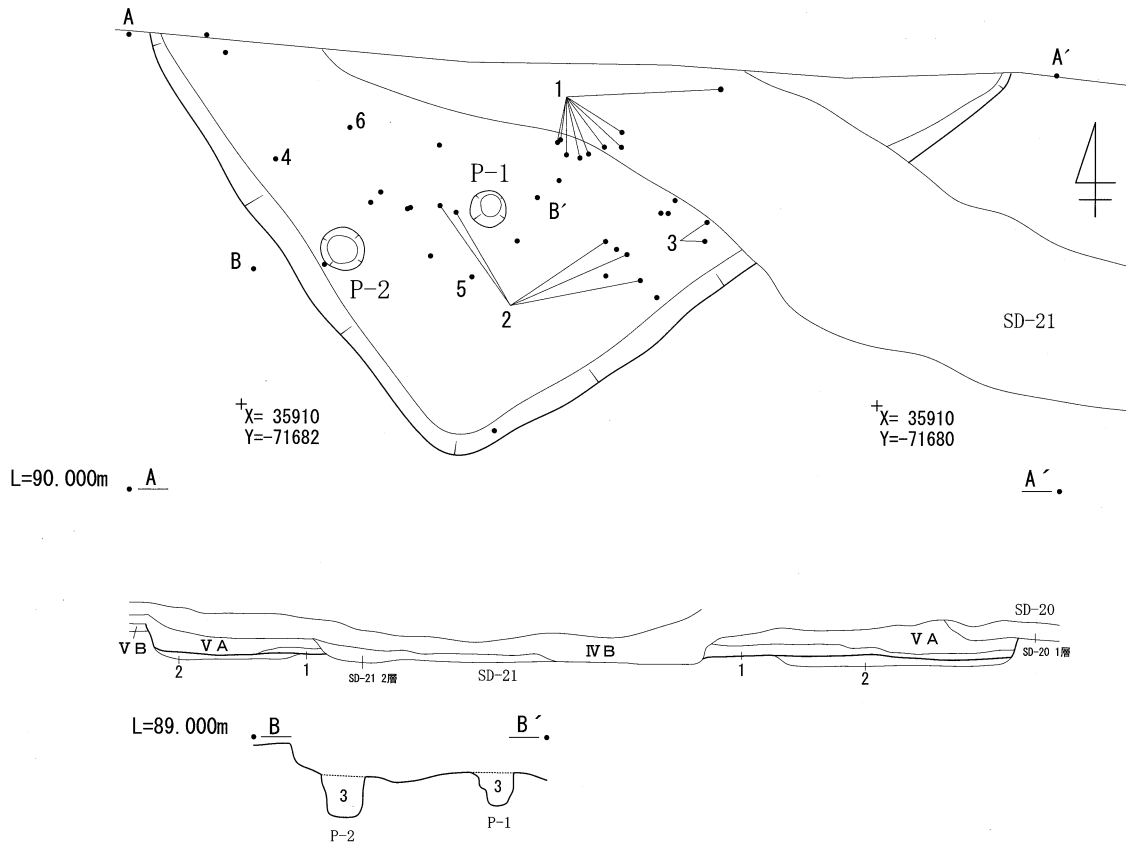
26 ~ 27 号溝 (SD-26 ~ 27、第6図)

SD-26 は調査区の西端で検出された。幅22 ~ 54cm、長さ278cmで、西壁から東方向にやや曲線状に伸びる。深さは15cmである。東端は浅くなって断絶する。

SD-27 は調査区の北壁際の西寄りにて検出された。幅21 ~ 28cm、長さ364cmで、北壁から南南東方向に伸びる。深さは12cmである。南端は浅くなって断絶する。SX-5 を切る。

28号溝 (SD-28、第6図)

調査区の東端で検出された。残存幅92 ~ 158cm、長さ495cmで、南壁から北北西方向に伸びる。深さは12 ~ 30cmである。調査区の東端で検出されたため、東岸が検出されず、規模は不明である。SI-1、SD-20、21、SK-2 に切られ、SX-3 を切る。当初、遺物の分布状況と試掘トレンチにおける埋没土のプランから、2軒の堅穴住居跡として調査したが、遺物を採番して採り上げた後に行なった掘削において、床面が検出されず、住居間を越えて伸びる帯状の低い落ち込みが認められたことから、2軒の住居跡ではなく1条の溝であることが判明した。本遺構は、最も大量の遺物を出土し、破片数にして数百点を数える。SX-3 出土遺物のようにならかなり程度まで復元できた遺物も存在する (No. 1、29)。土師器S字甕 (No. 9 ~ 25) を中心に35点を掲載した。掲載した遺物はS字甕の他は、土師器壺 (No. 1 ~ 4)、二重口縁壺 (No. 5)、壺底部 (No. 6 ~ 8)、台付甕 (No. 26 ~ 28)、小型鉢 (No. 29)、高坏 (No. 30)、坏 (No. 31)、小型丸底土器 (No. 32)、小型器台 (No. 33、



- 1 ①褐色(Hue10YR 4/1)②シルト③CL④中⑤中⑥堅⑦黄色(Hue2.5YR 8/8) ロームブロック(φ3.0-6.0cm)を20-30%含む。
- 2 ①黄色(Hue2.5Y 8/8) ②シルト③CL④中⑤中⑥堅⑦黒色(Hue10YR 2/1)ブロック(φ4.0-15.0cm)を30-40%含む。
- 3 ①黒色(Hue10YR 2/1) ②シルト③CL④中⑤中⑥軟⑦明黄褐色(Hue10YR 6/8) ロームブロック(φ0.5-1.0cm)を10-15%含む。

第8図 SI-1 平・断面図 (S=1:60)

34)、須恵器坏 (No. 35) である。これらの遺物の中で最も新しいのは須恵器坏 (No. 35) であり、口縁部が外反するところから9世紀後半とみられる。次に新しいものは土師器坏 (No. 31) で、丸い底部にヘラケズリ調整を施され、底部と口縁部との境に稜を有し、口縁部が内傾する、いわゆる模倣坏であり、6世紀と見られる。いずれも埋没土中の高い位置からの出土であり、SD-28の完全な埋没がかなり下ることの証かもしれない。主たる遺物は、S字甕をはじめとして古墳時代前期の遺物である。S字甕は、口縁部から肩部までの復元のため正確ではないが、肩部に横位クシガキがなく、口縁部の上段が長く口唇部の内側が平坦か沈線状を呈し、頸部から肩部への張り出しから、最大径を胴上半にもつもの (No. 9、10、14、19 など) と胴中央近くにもつもの (No. 11、12、15、24 など) とに大別される。前者は第1次調査地点のAb1・2類、後者はAb2・3類に該当し、概ね2段階から4段階古相 (大木 2007) に相当すると考えている。

1号竪穴住居跡 (SI-1、第8図)

位置 座標 (X=35909、Y=71678) と座標 (X=35913、Y=71686) の間に位置する。

形態 南東辺が全長 550.0cm、方位 N-55° -E。南西辺が残存長 430.0cm、方位 N-36° -W。平面形状は、北半分が調査区外のため断定できないが、東西もしくは南北に長い隅丸長方形を呈すると推定される。壁は上方が外に向かってやや開き、壁溝は検出されなかった。深さは 21 ~ 27cm。床面は全体的に硬化している。

施設 中央部はSD-21に破壊され、北半分が調査区外であるため、炉ないしカマドの有無は不明である。後述する帰属時期から、カマドのある住居跡と推定される。小穴が2基検出されており、対角線上に位置するP-1が柱穴と考えられる。南西壁際のP-2の機能は不明であるが、壁際に検出されていることから出入り口に係わるものかもしれない。貯蔵穴は検出されなかった。

概要 SD-21に切られ、SX-2、SD-28を切る。住居の埋没土は二層に分かれる。上層は基本土層のVA層で、埋没土の大半を占める。下層は上層にロームブロックが混入した層厚の薄い層である。埋没土の堆積状況から人為的に埋め戻されたものと判断した。ローム層を掘り込んで作られており、ロームと黒色土の混土で整地されて床面が形成されている。掘り方の形状は、湧水のため正確な形状を測図することがかなわなかったが、土層断面から中央部が高く壁際が低い断面凸形を呈していると推測される。

遺物 原位置と認められる遺物の出土はなく、埋没土からS字甕を主とする古墳時代前期の土師器片が主体的に出土している。本報告では、このうち、土師器長胴甕 (No. 1・2)、須恵器坏 (No. 3)、土師器S字甕 (No. 4・5)、土師器高坏 (No. 6)、土師器小型器台 (No. 7) を

掲載している。掲載した遺物の中で最も新しいものは、9世紀代と考えられる須恵器坏 (No. 3) であるが、後述の理由から、本来SD-21出土の遺物と考えている。次に新しい遺物は、土師器長胴甕 (No. 1・2) である。特にNo. 1は、口縁部が短く外反し、胴部に膨らみがなく、縦位のヘラケズリが施されていることから、6世紀末～7世紀初め*と考えられる。またその大半がSI-1の埋没土から出土しているため、SI-1の埋め戻し時に廃棄された遺物と推定される。残りの遺物 (No. 4～7) は、SI-1がSD-28を切っていることから、SD-28由来の混入品と考えたい。

*坂口氏のご教授による。また、小川氏には報告前の当該時期の一括資料を観察させていただいた。記して感謝いたします。

時期 土師器長胴甕 (No. 1) から、6世紀末～7世紀初め。

備考 SD-21との切り合いは、埋没土の掘削中には気づかず、遺物を採り上げた後に床面を検出したときに気づいた。SD-21がSI-1の床面を破壊している範囲内の遺物は、SD-21出土に変更したが、SD-21際で出土した遺物は、便宜上SI-1出土遺物として取り扱った。従って、須恵器坏 (No. 3) のように本来SD-21出土とすべき遺物をSI-1出土としてしまっている場合がある。

VI. まとめ

土壌断面からみた土地利用の履歴 基本土層から近世水田の存在が推定される。鉄・マンガン酸化集積層を間に挟む特徴から、II層は表面水型水田土壌と判断した。II A層とI A層との間に部分的にAs-Aを挟み下層にAs-B (III C層) が認められるため、層序に乱れがなければ、近世に帰属すると考えられる。III C層まで重機で除去したため、平面的に存在するかどうかの確認はできなかった。

土壌断面からみたAs-B下面の土地利用 As-B下面の土層断面 (IV層) は、下層土が弱還元して灰色を呈する特徴から、主に水田に利用される灰色沖積土と判断した。私見では、田中田遺跡IIで確認されたAs-B下水田の土壌断面 (村上2007) とよく似ている。第1面では、畦畔など水田の痕跡を平面的に検出できなかったが、水田として利用されていた可能性がある。

第1面 試掘調査において確認された溝であり、耕作痕と考えられている。試掘トレンチを挟んだ南側で検出された溝状のカクランとSD-1～6がほぼ一致するため、これらの溝がカクランの一部である可能性がある。帰属時期は不明であるが、埋没土であるAs-B中に下位層であるIV A層土がブロック状に認められたことから、少なくともAs-B降下以降であり、もしカクランの一部であるならばAs-A降下以降に帰属すると考えられる。

第2面 第2面は、試掘調査の成果から当初ローム面の検出を目的としてIV層を重機で掘り下げている途中で、遺物が多量に出土し始めたことと、VI層の上面でIV B層土を埋没土とする溝が検出されたために、調査対象とした面である。

調査区西半のSD-13～19は、第1面のSD-1～11と同様に、細長く、南北の方向が認められた。第3面由来の遺物が出土するのみで、遺構の帰属時期に合致する遺物の出土がなく、機能および帰属時期の特定は困難であったが、SD-21の埋没土との層序関係から、平安時代中頃以降As-B降下以前にまで絞り込むことができた。

SD-20、21は、本調査地点で検出された溝の中で、比較的深くしっかりした掘り込みの溝である。ごく一部分の検出であるが、溝の向きが平行しているため何らかの目的で掘られた溝と考えられよう。帰属時期は、SD-21の出土遺物から9世紀後半から10世紀ごろと推定される。

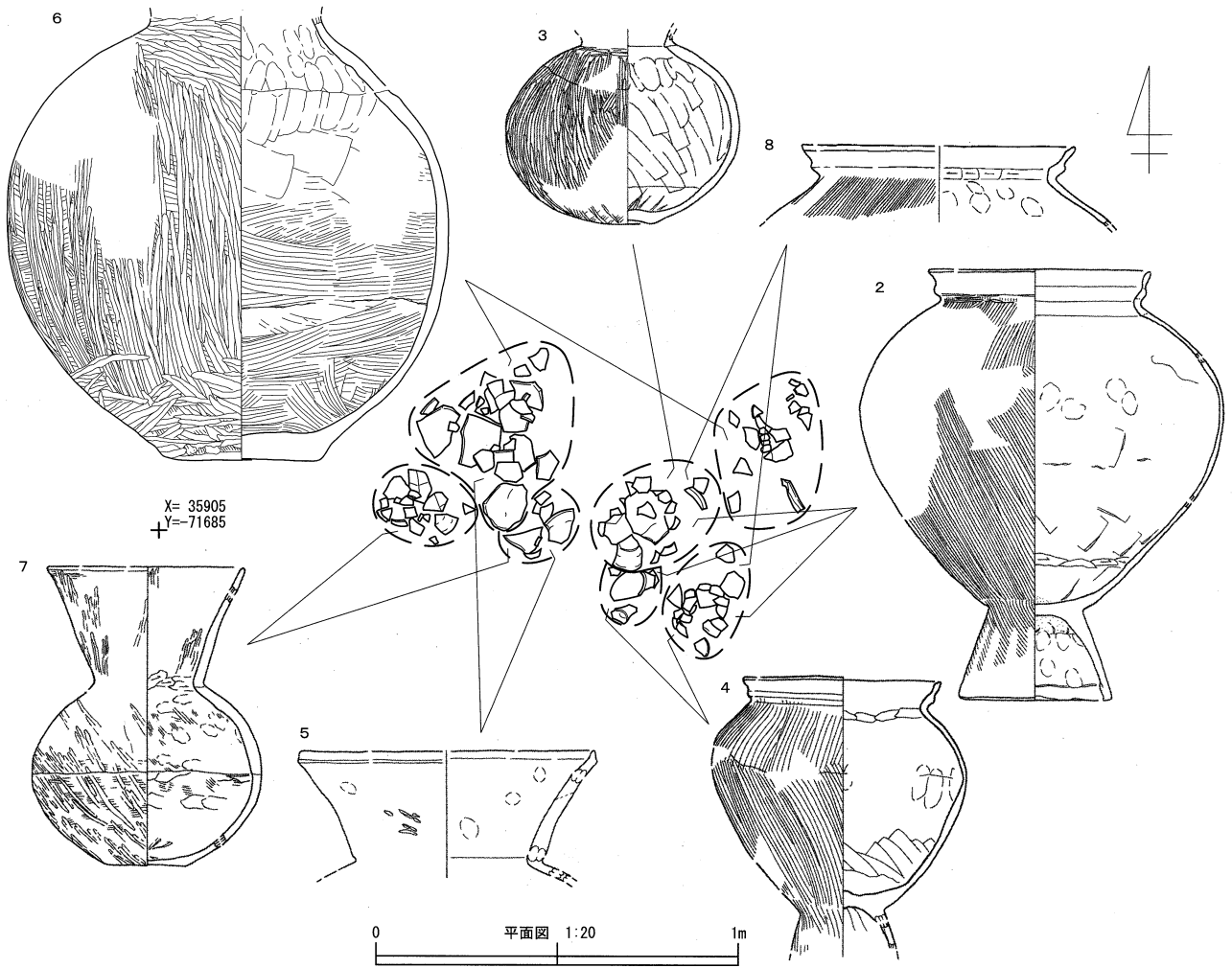
SI-1 SI-1は、本調査地点で唯一住居跡として認定した遺構である。隣接する第1次調査地点の住居群は、主に3世紀後半代～5世紀初めごろであり、6世紀後半代に帰属する住居跡が1軒のみである。SI-1は6世紀末～7世紀初め頃に比定されるため、第1次調査地点との関連性は若干薄いものと考えられる。帰属時期からカマドのある住居跡と思われるが、調査区内では確認されなかったため、調査区外に位置すると推定される。

SX-1～5、SD-28と遺物の分布状況 SX-1～5は、遺物が集中的に出土し、確認面において比較的明瞭な長方形のプランが認められたため、当初住居跡として調査したが、掘削の結果、壁面が緩やかに傾斜し深さが浅いなどSI-1のような明瞭な掘り込みが確認できず、硬化した床面や炉・カマドなど住居と認定できる証拠が認められなかった。遺物の出土状況は、大半の出土位置が遺構の底面よりも高く、むしろ確認面に近い高さであり、分布範囲も確認面で認められたプランよりも広い範囲に及んでいる (写真図版2) ため、遺構と遺物との個別の相関性はあまり高くないと推定される。けれども、SX-1～5の分布と遺物の分布のいずれも、調査区の北壁と南壁に沿い、調査区の中央から南西方向にかけて認められない点で共通点をもつ。

SD-28は、当初2軒の住居跡として調査したが、掘削の結果、住居と認定できる証拠が認められず住居間を越えて伸びる帯状の低い落ち込みが認められたことから、1条の溝であると判断した。遺物を大量に出土するが、まとまって廃棄されたと思われる状況を示す遺物 (No. 1、6、11、29) も出土している (写真図版3)。

SX-1～5、SD-28のいずれも、出土遺物そのものは大半が接合と復元のできない破片であるため廃棄されたものと考えられるが、出土遺物とSX-1～5、SD-28の分布状況から、廃棄の範囲に何らかの規制が設けられていたことが推定される。SD-28から出土したS字甕が帰属する時期は第1次調査地点の集落が機能していた時期であり、廃棄されたと推定される遺物はこの集落と関係があると思われる。

SX-3における一括廃棄 SX-3において7点の遺物 (No. 2～8) がまとまった状態で出土した。完形にまで復元できるほどの破片が出



第9図 SX-3 遺物出土状況 (遺物 S=1:4)

土しなかったが、第1面でも一部が露出していたため、表土はぎで削平してしまった可能性がある。第3面における遺物の出土状況と明らかに異なる状態で出土しているため、単なる廃棄ではないかもしれない。出土レベルが比較的高いことと、No.4のようにS字甕の中でも比較的新しい時期の遺物が含まれていることから、本調査地点における古墳時代前期の土地利用が終わるころに係わるものと考えておきたい。

結語 調査によって、本調査地点の履歴は以下のように推定される。本調査地点は、遺構よりも遺物の出土が特徴的であり、3世紀後半代～5世紀初めごろの本遺跡第1次調査地点の集落に関わりと推定される。古墳時代前期での利用が終了したのち、数世紀の断絶の後、6世紀末～7世紀初め頃に集落の一部に組み込まれたと考えられる。集落の廃絶後、平行するSD-20、21が埋没する9世紀後半から10世紀以降に、水田として機能していたと思われるが、As-B降下よりも前の11世紀中に水田としては廃絶されたと思われる。As-B降下後は、As-Aの降下以前の近世に水田として機能しており、I A層からの掘り込み(カクラン)から畑に転換したと推定される。

《参考文献》

- 飯塚恵子・田口一郎, 1981『元島名将塚古墳 前方後円墳の外部施設確認調査』(高崎市文化財調査報告書第22集), 高崎市教育委員会
- 坂口一・三浦京子, 1986「奈良・平安時代の土器の編年—住居の重複と共伴関係による土器型式組列の検討—」『群馬県史研究』24, 群馬県, pp.18-55
- 加藤芳郎, 1987「古環境解明のために土壌学は何を寄与しうるか」『土壌学と考古学』博文社, pp.7-31
- 松井健, 1988『土壌地理学序説』築地書館
- 若狭徹, 1990「群馬県における弥生土器の崩壊過程」『群馬考古学手帳』Vol.1, 群馬土器観会, pp.11-32
- 深沢敦仁, 1998「上野における土器の交流と画期」『庄内式土器研究』XVI, 庄内式土器研究会, pp.95-109
- 高崎市史編さん委員会, 2000『新編 高崎市史 資料編2 原始古代II』, 高崎市, pp.11-38

五十嵐 信・関口 修, 2000 「概説 古墳時代の高崎」『新編 高崎市史 資料編2 原始古代II』, 高崎市, pp.20-26

高崎市市史編さん委員会, 2003 『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』, 高崎市

柿沼恵介, 2003 「概説 弥生時代」『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』, 高崎市, pp.145-158

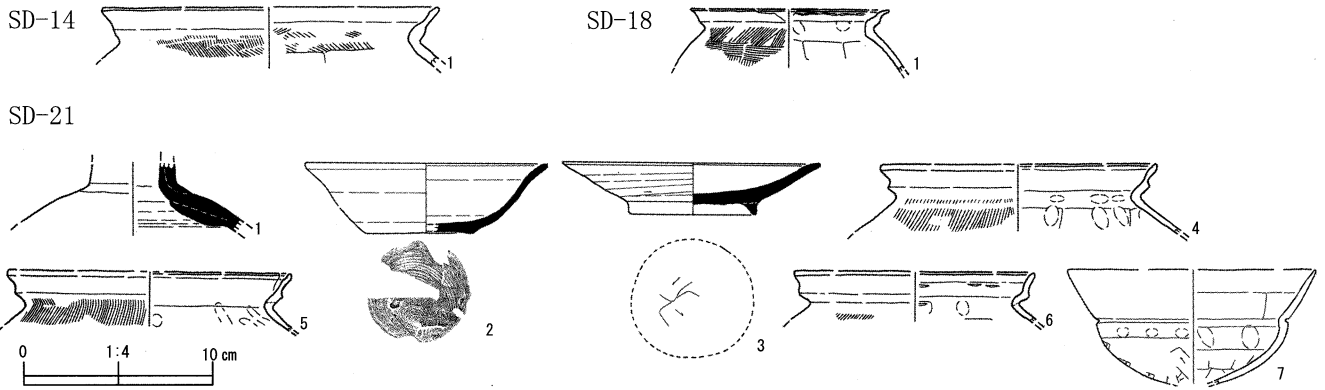
中村正芳, 2003 「高崎の自然の特色」『新編 高崎市史 通史編1 原始古代』高崎市

柏木一男・大木 紳一郎・中東耕志・植崎 修一郎, 2007 『中居町一丁目遺跡(都)3.3.8高崎駅東口線地方特定街路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第398集), 県土整備局高崎土木事務所・財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

大木 紳一郎, 2007 「出土遺物による年代の推定」『中居町一丁目遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団, pp.106-113

村上章義, 2007 「基本層序」『田中田遺跡II(仮称)伊勢崎PAスマートIC整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(伊勢崎市文化財報告書 第82集), 伊勢崎市教育委員会, pp.7-9

早川 由紀夫, 2010 「浅間山の風景に書き込まれた歴史を読み解く」『群馬大学教育学部紀要 自然科学編』第58巻, 群馬大学教育学部, pp.65-81



第10図 SD-14・SD-18・SD-21 出土遺物図

第1表 SD-14 出土遺物観察表

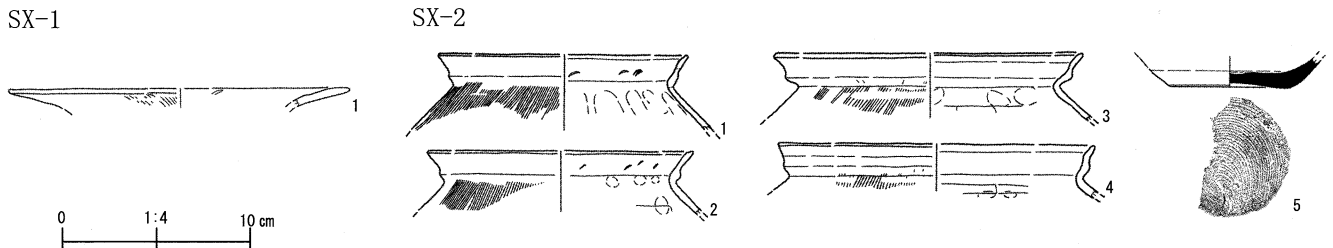
遺構 No.	種別 器種	①口径 ②器高	③底径 ④残存	⑤焼成 ⑥成形	⑦色調(外面) ⑧色調(内面)	⑨外面調整 ⑩内面調整	備考・接合(採番 No.)
SD-14 1	土師器 S字壺	① 17.8 ② (2.7)	③ - ④ 口~肩1/12	⑤ 輪積 ⑥ 輪積	⑦ にぶい赤褐色 (Hue5YR 5/4) ⑧ にぶい赤褐色 (Hue5YR 5/4)	⑨ 口:ヨコナデ。頸:ヨコナデ。肩:縦位クシガキ。 ⑩ 口:ヨコナデ。頸:斜位ハケ目のちナデ。肩:横位ヘラナデ。	フク土A

第2表 SD-18 出土遺物観察表

遺構 No.	種別 器種	①口径 ②器高	③底径 ④残存	⑤焼成 ⑥成形	⑦色調(外面) ⑧色調(内面)	⑨外面調整 ⑩内面調整	備考・接合(採番 No.)
SD-18 1	土師器 小型S字壺	① 10.4 ② (3.05)	③ - ④ 口~肩1/6	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい黄褐色 (Hue10YR 5/3) ⑧ にぶい黄褐色 (Hue10YR 5/3)	⑨ 口:ヨコナデ。頸:ヨコナデ。肩:縦位クシガキのち横位クシガキ。 ⑩ 口:横位ヘラナデ。頸:指押さえのちヨコナデ。肩:横位ヘラナデ。	

第3表 SD-21 出土遺物観察表

遺構 No.	種別 器種	①口径 ②器高	③底径 ④残存	⑤焼成 ⑥成形	⑦色調(外面) ⑧色調(内面)	⑨外面調整 ⑩内面調整	備考・接合(採番 No.)
SD-21 1	土師器 S字壺	① 12.6 ② (2.55)	③ - ④ 口~肩1/8	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ 褐色 (Hue7.5YR 4/4) ⑧ にぶい橙色 (Hue7.5YR 6/4)	⑨ 口:ヨコナデ。頸:ヨコナデ。クシガキのちナデ消し。肩:クシガキのちナデ消し。 ⑩ 口~頸:ヨコナデ。肩:指押さえのちヘラナデ。	フク土上層
SD-21 2	土師器 S字壺	① 14.4 ② (3.50)	③ - ④ 口~肩1/8	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ 褐色 (Hue7.5YR 4/4) ⑧ 褐色 (Hue7.5YR 4/4)	⑨ 口~頸:ヨコナデ。肩:クシガキのちヨコナデ消し。 ⑩ 口:ヘラナデ。ヨコナデ。頸:指押さえ。肩指押さえのちヘラナデ。	18
SD-21 3	須恵器 坏	① 12.6 ② 3.65	③ 5.60 ④ 口~底3/4	⑤ 酸化 ⑥ ロクロ	⑦ 灰黄色 (Hue2.5Y 7/2) ⑧ 灰黄色 (Hue2.5Y 7/2)	⑨ 口~胴:ロクロナデ。底:回転糸切り(右)。 ⑩ 口~底:ロクロナデ。	19, 21, SI-1 フク土A下層
SD-21 4	須恵器 蓋	① - ② (3.55)	③ - ④ 頸~肩	⑤ 酸化 ⑥ ロクロ	⑦ 赤灰色 (Hue2.5YR 4/1) ⑧ 赤灰色 (Hue2.5YR 4/1)	⑨ 頸:ロクロナデ。肩:自然釉。 ⑩ 頸~肩:ロクロナデ。	1
SD-21 5	土師器 S字壺	① 15.0 ② (2.90)	③ - ④ 口~肩3/16	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ 褐色 (Hue7.5YR 4/3) ⑧ 褐色 (Hue7.5YR 4/3)	⑨ 口:ヨコナデ。頸~肩:縦位クシガキ。 ⑩ 口:横位ヘラナデ。ヨコナデ。頸:ヨコナデ。縦位指押さえナデ。肩:縦位指押さえナデ。	フク土上層
SD-21 6	須恵器 皿	① 13.6 ② 2.7	③ 6.6 ④ 口~台2/3	⑤ 酸化 ⑥ ロクロ	⑦ 赤褐色 (Hue5YR 4/6) ⑧ 黒褐色 (Hue5YR 3/1)	⑨ 口:水換状ロクロナデ。胴:水換状ロクロナデ。回転ヘラケズリ。底:ヘラケズリ。台:貼り付けのちナデ。 ⑩ 口~胴:ロクロナデのちミガキのち炭素吸着による黒色化。台:貼り付けのちナデ。	5, 6, 7, 8 ミガキの方向や単位は不明
SD-21 7	土師器 小型丸底土器	① 13.0 ② (6.0)	③ 9.6 ④ 口~底	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい橙色 (Hue7.5YR 6/4) ⑧ にぶい橙色 (Hue7.5YR 6/4)	⑨ 口:ヨコナデ。ナデ。沈線。胴:指押さえのちナデ。底:ヘラケズリのちナデ。 ⑩ 口:ヨコナデ。ヘラナデ。胴:指押さえのちナデ。底:ヘラナデ。	22



第11図 SX-1・SX-2 出土遺物図

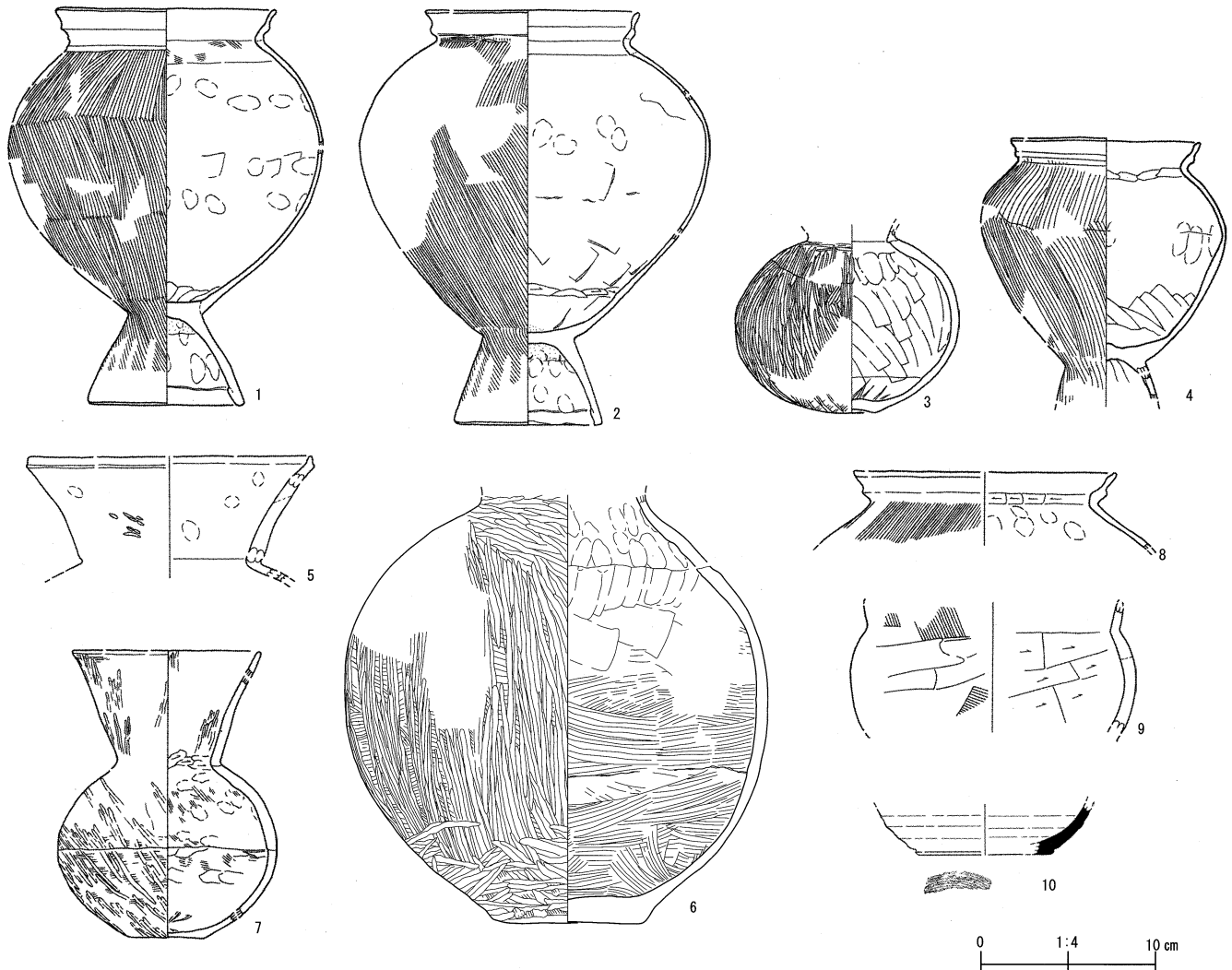
第4表 SX-1 出土遺物観察表

遺構 No.	種別 器種	①口径 ②器高	③底径 ④残存	⑤焼成 ⑥成形	⑦色調(外面) ⑧色調(内面)	⑨外面調整 ⑩内面調整	備考・接合(採番 No.)
SX-1 1	土師器 壺	① 28.0 ② (1.0)	③ - ④ 口1/8	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ 赤褐色 (Hue5YR 4/8) ⑧ 赤褐色 (Hue5YR 4/8)	⑨ 口: ヨコナデ。縦位ミガキ。 ⑩ 口: ヨコナデ。ミガキ。	2 内面の剥離が激しい。

第5表 SX-2 出土遺物観察表

遺構 No.	種別 器種	①口径 ②器高	③底径 ④残存	⑤焼成 ⑥成形	⑦色調(外面) ⑧色調(内面)	⑨外面調整 ⑩内面調整	備考・接合(採番 No.)
SX-2 1	土師器 S字壺	① 13.2 ② (4.05)	③ - ④ 口~肩1/4	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい黄橙色 (Hue10YR 7/4) ⑧ にぶい黄橙色 (Hue10YR 7/4)	⑨ 口: ヨコナデ。頸: 縦位クシガキのちヨコナデ。肩: 縦位クシガキ。 ⑩ 口: ヨコナデ。ヘラナデ。頸: ヨコナデ。爪痕。肩: 縦位指押さえナデ。	21, 23, 32(2), 33(2)。No. 20, 32 と同一個体と思われる。内部頸部の爪痕は、接合痕を指押さえナデでナデ消す時に出来たものと推定される。
SX-2 2	土師器 S字壺	① 14.0 ② (3.20)	③ - ④ 口~肩	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい黄橙色 (Hue10YR 6/4) ⑧ にぶい黄橙色 (Hue10YR 6/4)	⑨ 口: ヨコナデ。頸: ヨコナデ。肩: 縦位クシガキ。 ⑩ 口: ヨコナデ。ヘラナデ。頸: ヨコナデ。爪痕。肩: 指押さえのちヘラナデ。	20, 32。口径が1cmほど相異なるが、容形、調整、胎土などの共通性から、No. 21, 23, 32(2), 33(2) と同一個体と推定される。但し、こちらでは縦位の指押さえナデはみとめられなかった。
SX-2 3	土師器 S字壺	① 16.2 ② (3.45)	③ - ④ 口~肩1/6	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい赤褐色 (Hue5YR 5/4) ⑧ 暗赤褐色 (Hue5YR 3/4)	⑨ 口: ヨコナデ。頸: ヨコナデ。肩: 縦位クシガキのちナデ消し。 ⑩ 口: ヨコナデ。横位ヘラナデ。頸: ヨコナデ。肩: 指押さえのちヘラナデ。	フク土A上層(2)
SX-2 4	土師器 S字壺	① 16.6 ② (2.50)	③ - ④ 口~肩1/8	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい黄褐色 (Hue10YR 5/4) ⑧ にぶい黄褐色 (Hue10YR 5/4)	⑨ 口: ヨコナデ。頸: 縦位クシガキのちヨコナデ。肩: 縦位クシガキのちナデ消し。 ⑩ 口: ヨコナデ。横位ヘラナデ。頸: ヨコナデ。肩: 指押さえのち横位ヘラナデ。	フク土A上層
SX-2 5	須恵器 坏	① - ② (1.65)	③ 6.55 ④ 胴~底1/2	⑤ 還元 ⑥ ロクロ	⑦ 黄灰色 (Hue2.5Y 4/1) ⑧ 黄灰色 (Hue2.5Y 4/1)	⑨ 胴: ロクロナデ。底: 回転系切り(右)。 ⑩ 胴: ロクロナデ。底: ロクロナデ。	12

SX-3



第12図 SX-3 出土遺物図

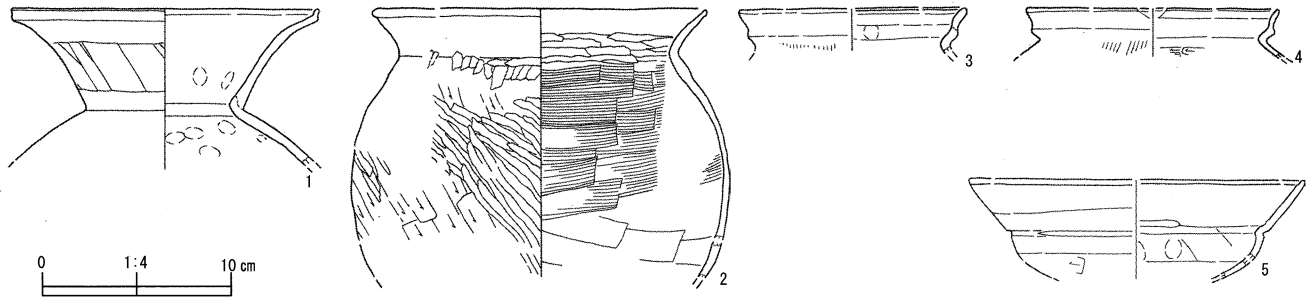
第6表 SX-3 出土遺物観察表

遺構 No.	種別 器種	①口径 ②器高	③底径 ④残存	⑤焼成 ⑥成形	⑦色調(外面) ⑧色調(内面)	⑨外面調整 ⑩内面調整	備考・接合(採番 No.)
SX-3 1	土師器 S字甕	① 12.6 ② 22.7	③ 台径 8.8 ④ 口~台 1/2	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ 褐色 (Hue7.5YR 4/3) ⑧ 褐色 (Hue7.5YR 4/3)	⑨ 口:ヨコナデ。頸:横位ヘラナデ。肩~胴:下→上、左→右の施文順序でクシガキ(掻目)。腰~胴:体部クシガキの施に施文ヘラによる縦位ナデ消し。台:体部クシガキの施に施文による縦位ナデ消し。ナデ。 ⑩ 口:ヨコナデ。頸:ハケ目のちナデ。肩~胴:ヘラナデ。指押さえ。腰:ヘラナデ。底:砂粒混粘土を盛りナデ。補強、爪痕あり。台:指ナデ。指押さえ。	73, SX-4 フク土上
SX-3 2	土師器 S字甕	① 12.1 ② 24.7	③ 台径 8.2 ④ 口~台	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい褐色 (Hue7.5YR 5/4) ⑧ にぶい褐色 (Hue7.5YR 5/4)	⑨ 口:ヨコナデ。頸:横位によるケズリ。肩~腰:上→下、左→右の施文順序でクシガキ(掻目)。底:クシガキのちヘラによる横位ナデ消し。台:クシガキのちヘラによる縦位ナデ消し。ナデ。 ⑩ 口~頸:ヨコナデ。肩:指押さえ。胴:ヘラナデ。横位ヘラケズリ。腰:ヘラケズリ。底:接合部に砂粒混粘土を盛り指ナデ。補強、爪端部残る。台:指ナデ。指押さえ。	69, 75, 76, 77, フク土B
SX-3 3	土師器 直口壺	① - ② (10.7)	③ 2.8 ④ 頸~底	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい褐色 (Hue7.5YR 7/4) ⑧ にぶい褐色 (Hue7.5YR 7/4)	⑨ 口:ヨコナデ。横位ヘラミガキ。肩~胴:縦位ヘラミガキ。底:ヘラケズリ。 ⑩ 頸:ヨコナデ。肩:ヘラナデのち指押さえ。胴~腰:ヘラナデ。	76, フク土B
SX-3 4	土師器 S字甕	① 10.8 ② (15.30)	③ - ④ 口~台	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい褐色 (Hue7.5YR 6/3) ⑧ にぶい褐色 (Hue7.5YR 6/3)	⑨ 口:ヨコナデ。頸~台:クシガキ。 ⑩ 口:ヨコナデ。頸:ヘラナデ。肩:ナデ。胴:指押さえ。腰:ヘラナデ。底:砂粒混粘土貼付。台:ナデ。	75, 77, フク土B
SX-3 5	土師器 壺	① 16.2 ② (6.9)	③ - ④ 口~頸 3/4	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ 暗褐色 (Hue10YR 3/4) ⑧ 暗褐色 (Hue10YR 3/4)	⑨ 口:ヨコナデ。横位ヘラナデ。 ⑩ 口:ヨコナデ。指押さえのちヨコナデ。	63, 78(4), 79(2), フク土A上層, フク土B
SX-3 6	土師器 広口壺	① - ② (24.5)	③ 8.5 ④ 頸~底	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい褐色 (Hue7.5YR 6/4) ⑧ にぶい褐色 (Hue7.5YR 6/4)	⑨ 頸~胴:横位クシガキのち縦斜位ヘラミガキ。腰:斜位クシガキのち横位ヘラミガキ。底:平行列線(木葉痕か)のちヘラケズリ。 ⑩ 頸~肩:指押さえ。胴:横位ヘラナデ。腰~底:ハケ目。	74, 79, フク土, フク土A上層, フク土B
SX-3 7	土師器 直口壺	① 9.8 ② 16.5	③ 4.4 ④ 口~底	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい赤褐色 (Hue5YR 5/4) ⑧ にぶい赤褐色 (Hue5YR 5/4)	⑨ 口:ヨコナデのちヘラミガキ。頸~肩:ヘラミガキ。胴:横位クシガキのちヘラミガキ。腰:ヘラミガキ。底:磨減(ヘラミガキか)。 ⑩ 口:ヘラミガキ。頸:横位ヘラナデ。肩:指押さえのちクシガキ。胴:クシガキのちヘラナデ。腰~底:ヘラナデ。	47, 50, 78, 80, 90, フク土A上層
SX-3 8	土師器 S字甕	① 15.0 ② (4.2)	③ - ④ 口~肩 3/16	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/4) ⑧ にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/4)	⑨ 口:ヨコナデ。頸:クシガキ。肩:クシガキ。 ⑩ 口:ヨコナデ。頸:ヘラケズリ。肩:指押さえ。	75, 76, フク土B, SX-3・4 3面
SX-3 9	土師器 小型直口壺	① - ② (5.40)	③ - ④ 頸~腰 1/4	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ 褐色 (Hue7.5YR 4/6) ⑧ 褐色 (Hue7.5YR 4/6)	⑨ 頸:斜位ハケ目。肩~胴:弱い横位ハケ目。腰:斜位ハケ目。 ⑩ 頸:弱い横位ハケ目。肩~腰:横斜位ヘラケズリ。	33, 3面I
SX-3 10	須恵器 甕	① - ② (2.95)	③ 7.90 ④ 胴~台 1/6	⑤ 還元 ⑥ ロクロ	⑦ 褐色 (Hue10YR 5/1) ⑧ 褐色 (Hue10YR 5/1)	⑨ 口:ロクロナデ。底:回転糸切り。縁をヘラナデ。台:ヘラ切りによる削り出し高台。 ⑩ 頸:ロクロナデ。底:ロクロナデ	20 小破片のため、糸切り回転方向は不明。

SX-4



SX-5



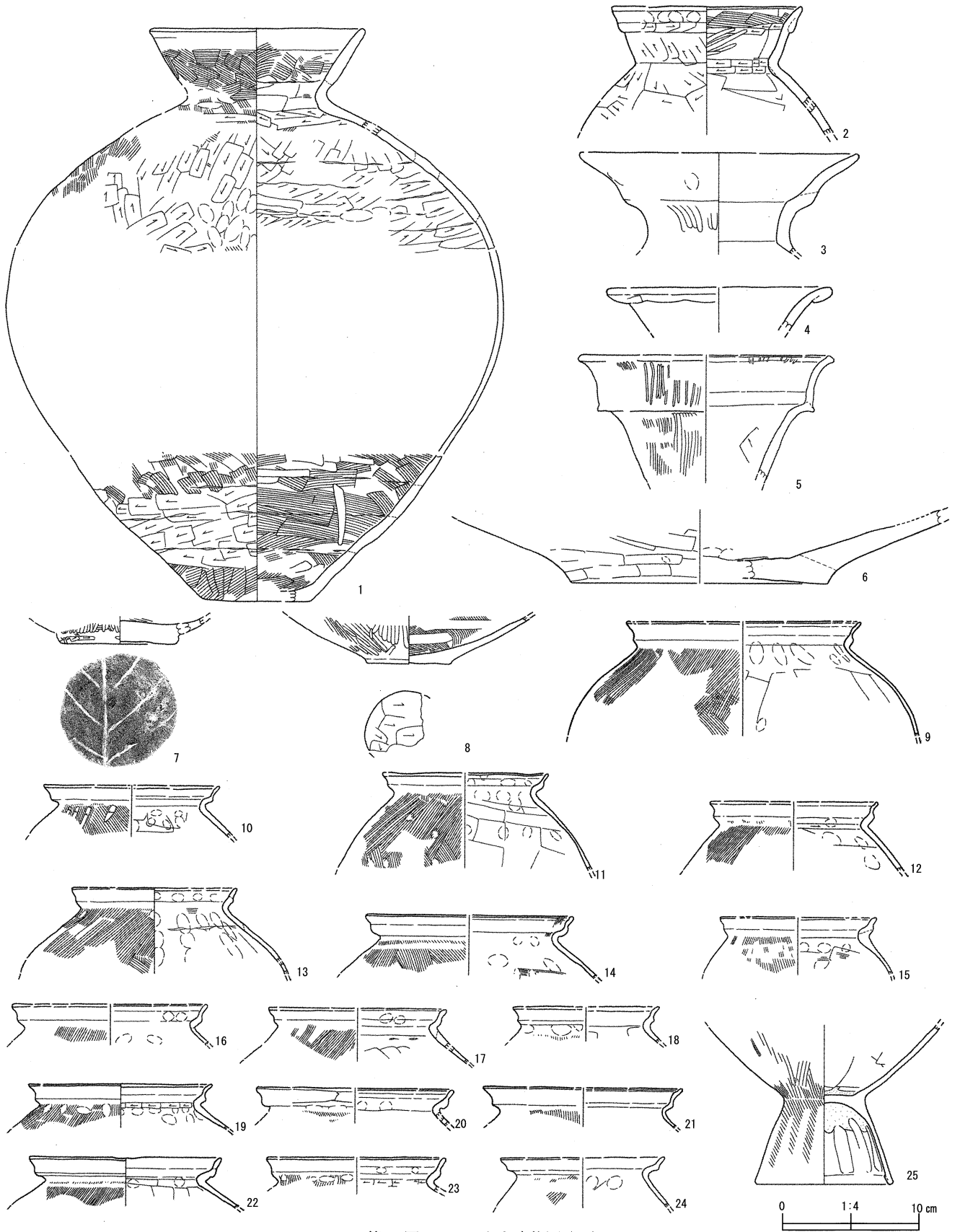
第13図 SX-4・SX-5 出土遺物図

第7表 SX-4 出土遺物観察表

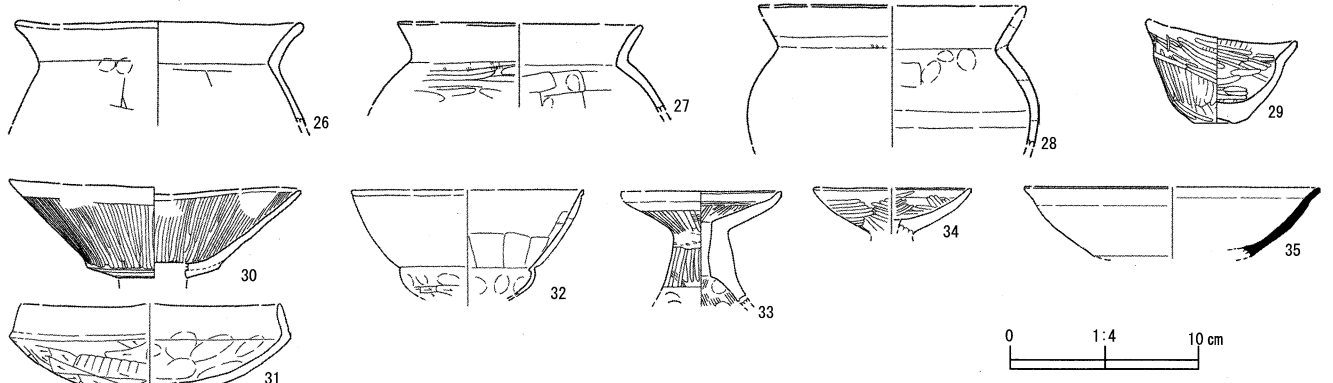
遺構 No.	種別 器種	①口径 ②器高	③底径 ④残存	⑤焼成 ⑥成形	⑦色調(外面) ⑧色調(内面)	⑨外面調整 ⑩内面調整	備考・接合(採番 No.)
SX-4 1	土師器 S字甕	① 15.6 ② (3.40)	③ - ④ 口~肩 1/4	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい褐色 (Hue7.5YR 5/3) ⑧ 明褐色 (Hue7.5YR 5/6)	⑨ 口:ヨコナデ。頸:ヨコナデ。肩:縦位クシガキのちナデ消し。 ⑩ 口:ヨコナデ。ヘラナデ。頸:ヨコナデ。肩:横位ハケ目のちナデ。	11

第8表 SX-5 出土遺物観察表

遺構 No.	種別 器種	①口径 ②器高	③底径 ④残存	⑤焼成 ⑥成形	⑦色調(外面) ⑧色調(内面)	⑨外面調整 ⑩内面調整	備考・接合(採番 No.)
SX-5 1	土師器 広口壺 or 単口縁壺	① 16.2 ② (8.0)	③ - ④ 口~肩 1/2	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい赤褐色 (Hue5YR 5/3) ⑧ にぶい赤褐色 (Hue5YR 5/3)	⑨ 口:つまみナデのちヘラナデ。頸:縦位ヘラナデのち上下両端をヨコナデ。肩:ナデ。 ⑩ 口:つまみナデ。頸:指押さえのちヨコナデ。屈曲部下段を横位ヘラナデ。肩:指押さえ。	3, 4, 6, 7, 71, (2), 72(6), ? (2)
SX-5 2	土師器 台付壺	① 17.6 ② (14.2)	③ - ④ 口~胴	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ 黒褐色 (Hue7.5YR 3/1) ⑧ 暗褐色 (Hue7.5YR 3/3)	⑨ 口:ヨコナデ。頸:ヘラケズリ。肩:斜位ヘラケズリのちヘラミガキ。 ⑩ 口:ヨコナデ。頸:横位ヘラナデ。肩~胴:ハケナデ。	32, 36, 54, 56, 61, 74, 75, 78, 83, フク土A上層
SX-5 3	土師器 S字甕	① 13.4 ② (2.5)	③ - ④ 口~肩 1/16	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい褐色 (Hue7.5YR 5/4) ⑧ にぶい褐色 (Hue7.5YR 5/4)	⑨ 口:ヨコナデ。頸~肩:クシガキのちナデ消し。 ⑩ 口~頸:ヨコナデ。肩:ヘラケズリ。	45
SX-5 4	土師器 S字甕	① 11.8 ② (2.2)	③ - ④ 口~頸 1/8	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/4) ⑧ にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/4)	⑨ 口:ヨコナデ。頸:クシガキ。 ⑩ 口~頸:指押さえのちヨコナデ。	47
SX-5 5	土師器 小型丸底土器	① 17.8 ② (6.2)	③ 12.6 ④ 口~底 3/16	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい褐色 (Hue7.5YR 5/4) ⑧ にぶい褐色 (Hue7.5YR 5/4)	⑨ 口:ヘラナデ。胴:ヘラナデ。ヘラケズリのちヘラナデ。底:ヘラケズリのちヘラナデ。 ⑩ 口~底:ヘラナデ。胴:指押さえのち斜位ヘラナデのち横位ヘラナデ。	35



第14图 SD-28出土遺物图(1)



第 15 図 SD-28 出土遺物図 (2)

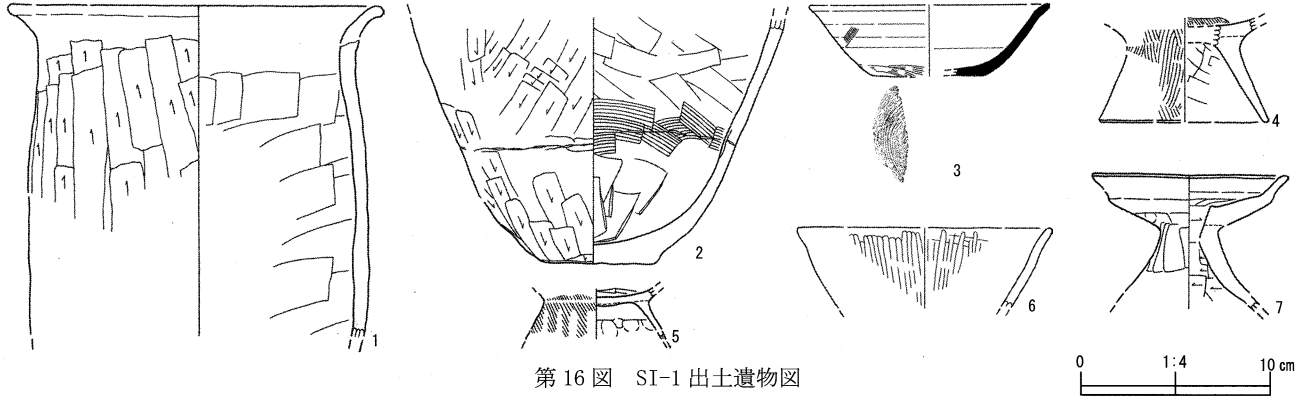
第 9 表 SD-28 出土遺物観察表 (1)

遺構 No.	種別 器種	①口径 ②器高	③底径 ④残存	⑤焼成 ⑥成形	⑦色調 (外面) ⑧色調 (内面)	⑨外面調整 ⑩内面調整	備考・接合 (採番 No.)
SD-28 1	土師器 壺	① 15.5 ② 42.0	③ 7.8 ④ 口～底	⑤酸化 ⑥輪積	⑦暗赤褐色 (Hue5YR 3/4) ⑧暗赤褐色 (Hue5YR 3/4)	⑨口：ヨコナデ。横斜位ハケ目。頸：縦位ハケ目のちハケ目。肩：横位ヘラケズリ。胴：縦位ヘラケズリ。指ナデ。斜位ハケ目。腰：横位ヘラケズリ。横位ハケ目。底：ヘラケズリ。 ⑩口：ヨコナデ。横位ハケ目のちナデ。頸：ヘラナデ。肩：横位ヘラケズリのちヘラナデ。腰：ヘラケズリのちヘラナデ。ヘラケズリのち指ナデ。腰：横斜位ハケ目ヘラケズリ。底：ヘラナデ。	142, 145, 148, 150, 208, フク土 C, フク土上層
SD-28 2	土師器	① 14.0 ② (9.40)	③ - ④ 口～肩	⑤酸化 ⑥輪積	⑦にぶい赤褐色 (Hue5YR 5/4) ⑧にぶい赤褐色 (Hue5YR 5/4)	⑨口：ヨコナデ。頸：縦位ヘラナデ。縦位ヘラナデのちヨコナデ。ヨコナデ。 ⑩口：ヨコナデ。ヘラナデ。頸：ナデ。横位ハケ目のち斜位ヘラケズリ (上段)、横位ヘラケズリ (下段)。 ⑪口：ハケ目。ヘラケズリ。ヘラナデのちヘラミガキ。頸：ヘラケズリ。肩：ヘラナデ。	206, フク土 C, SD-21 30, 32, 42
SD-28 3	土師器	① 20.2 ② (7.30)	③ - ④ 口～頸 1/4	⑤酸化 ⑥輪積	⑦にぶい黄褐色 (Hue10YR 5/4) ⑧にぶい黄褐色 (Hue10YR 5/4)	⑨口：ヨコナデ。頸：ヨコナデ。指押さえ。 ⑩口：ヨコナデ。ヘラナデ。頸：ナデ。	57, 247, 248, フク土 B 上層, SX-3 5
SD-28 4	土師器 壺	① 16.3 ② (3.25)	③ - ④ 口～頸 1/6	⑤酸化 ⑥輪積	⑦黒褐色 (Hue7.5YR 3/1) ⑧黒褐色 (Hue7.5YR 3/1)	⑨口：ヨコナデ。頸：ヨコナデ。	12
SD-28 5	土師器 二重口縁壺	① 18.2 ② (9.35)	③ 6.0 ④ 口～頸 1/6	⑤酸化 ⑥輪積	⑦赤褐色 (Hue5YR 4/8) ⑧暗赤褐色 (Hue5YR 3/2)	⑨口：ヘラナデ。頸：縦位ヘラミガキ。 ⑩口：ヘラナデのち縦位ヘラミガキ。頸：ヨコナデ。	97, 118, 119, フク土 A (2), フク土 B 上層 頸部上段のヘラミガキは暗文状となっている。口縁内面のヘラミガキは暗文状となっている。
SD-28 6	土師器 壺	① - ② (4.5)	③ 18.8 ④ 腰～底 1/4	⑤酸化 ⑥輪積	⑦にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/3) ⑧にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/3)	⑨腰：ヘラナデ。指押さえナデ。底：ナデ。 ⑩腰：ナデ。指押さえナデ。	171
SD-28 7	土師器 壺	① - ② (2.0)	③ 8.2 ④ 腰～底	⑤酸化 ⑥輪積	⑦にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/4) ⑧にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/4)	⑨腰：ハケ目のちヘラナデ。 ⑩腰～底：ハケ目のちヘラナデ。	211
SD-28 8	土師器 壺	① - ② (3.50)	③ 6.0 ④ 腰～底	⑤酸化 ⑥輪積	⑦黒色 (Hue10YR 2/1) ⑧灰黄褐色 (Hue10YR 6/2)	⑨腰：ヘラミガキ。底：ヘラケズリ。 ⑩腰～底：ハケ目のちヘラナデ。	162, 167, フク土 C 上層
SD-28 9	土師器 S 字甕	① 17.2 ② (8.35)	③ - ④ 口～肩 1/4	⑤酸化 ⑥輪積	⑦にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/3) ⑧にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/3)	⑨口：ヨコナデ。頸：ヨコナデ。縦位クシガキ。肩：縦位クシガキ。斜位クシガキ。 ⑩口：ヘラナデ。頸：ヨコナデ。輪積痕を縦位の指押さえナデによるナデ消し。肩：指押さえのち縦位ヘラナデ。	74, 76, 80, フク土 C 下層
SD-28 10	土師器 S 字甕	① 12.8 ② (3.60)	③ - ④ 口～肩 1/16	⑤酸化 ⑥輪積	⑦にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/4) ⑧にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/4)	⑨口：ヨコナデ。頸～肩：クシガキのちヘラケズリ。 ⑩口：ヨコナデ。頸～肩：指押さえのちヘラナデ。	187, 197
SD-28 11	土師器 S 字甕	① 12.0 ② (6.30)	③ - ④ 口～肩 1/4	⑤酸化 ⑥輪積	⑦にぶい褐色 (Hue7.5YR 5/4) ⑧にぶい褐色 (Hue7.5YR 5/4)	⑨口：ヨコナデ。頸～肩：クシガキのち一部指ナデ消し。 ⑩口：ヘラナデ。指押さえのちヨコナデ。頸～肩：指ナデ。	180, 191, 197, 212
SD-28 12	土師器 S 字甕	① 12.2 ② (5.05)	③ - ④ 口～肩	⑤酸化 ⑥輪積	⑦黒褐色 (Hue7.5YR 3/2) ⑧にぶい黄褐色 (Hue10YR 5/3)	⑨口：ヨコナデ。頸：縦位ヘラミガキのちヨコナデ。肩：縦位クシガキ。 ⑩口：ヘラナデ。頸：指押さえのちヨコナデ。ヘラケズリ。肩：指押さえのち横位ヘラナデ。	36, 72, フク土下層
SD-28 13	土師器 S 字甕	① 12.0 ② (7.0)	③ - ④ 口～肩 3/16	⑤酸化 ⑥輪積	⑦赤褐色 (Hue5YR 4/6) ⑧赤褐色 (Hue5YR 4/6)	⑨口：指ナデ。頸～肩：クシガキのち一部ナデ消し。 ⑩口：指押さえのちナデ。指押さえナデ。頸：指押さえ。肩：指押さえのちナデ。	217
SD-28 14	土師器 S 字甕	① 15.0 ② (4.35)	③ - ④ 口～肩 1/4	⑤酸化 ⑥輪積	⑦暗褐色 (Hue10YR 3/3) ⑧にぶい黄褐色 (Hue10YR 4/3)	⑨口：ヨコナデ (指)。頸：ヨコナデ (指)。肩：縦位クシガキのちヨコナデ消し。 ⑩口：横位ヘラナデ。頸：ヨコナデ (指)。肩：横位ハケ目のち指押さえ。	244
SD-28 15	土師器 S 字甕	① 11.4 ② (4.10)	③ - ④ 口～肩 1/8	⑤酸化 ⑥輪積	⑦にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/2) ⑧にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/2)	⑨口～頸：ヨコナデ。肩：縦位クシガキ。 ⑩口～頸：ヨコナデ。肩：指押さえのち横位ハケ目のち横位ヘラナデ。	237
SD-28 16	土師器 S 字甕	① 14.2 ② (2.8)	③ - ④ 口～肩 1/4	⑤酸化 ⑥輪積	⑦暗褐色 (Hue7.5YR 3/3) ⑧にぶい褐色 (Hue10YR 3/3)	⑨口：ヨコナデ。頸：ヨコナデ。縦位クシガキのちナデ。肩：縦位クシガキ。 ⑩口：ヘラナデ。頸：指押さえのちヨコナデ。肩：指押さえ。	17, 18 (2), フク土 A
SD-28 17	土師器 S 字甕	① 13.0 ② (3.80)	③ - ④ 口～肩 1/8	⑤酸化 ⑥輪積	⑦にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/4) ⑧にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/4)	⑨口：ヨコナデ。頸～肩：クシガキのちナデ消し。 ⑩口：ヨコナデ (ヘラ)。指押さえのちヨコナデ。頸：指押さえのちヨコナデ。肩：接合痕ナデ消し。ヘラナデ。	208
SD-28 18	土師器 S 字甕	① 10.6 ② (2.50)	③ - ④ 口～肩 1/8	⑤酸化 ⑥輪積	⑦暗褐色 (Hue7.5YR 3/4) ⑧暗褐色 (Hue7.5YR 3/4)	⑨口：ヨコナデ。頸：クシガキのち指ナデ消し。肩：クシガキ。 ⑩口～肩：ヨコナデ。肩：ヘラナデ。	11
SD-28 19	土師器 S 字甕	① 13.4 ② (3.20)	③ - ④ 口～肩 1/4	⑤酸化 ⑥輪積	⑦暗褐色 (Hue7.5YR 3/4) ⑧暗褐色 (Hue7.5YR 3/4)	⑨口：ヨコナデ。頸：クシガキのち指ナデ。肩：クシガキ。 ⑩口：ヨコナデ。頸：横位ヘラケズリ。肩：指押さえ。	133, 134
SD-28 20	土師器 S 字甕	① 14.3 ② (2.55)	③ - ④ 口～肩 1/8	⑤酸化 ⑥輪積	⑦黒褐色 (Hue10YR 2/3) ⑧暗褐色 (Hue10YR 3/3)	⑨口：ヨコナデ (指)。頸：ヨコナデ (指)。肩：縦位クシガキのちナデ消し。 ⑩口：横位ヘラナデ。頸：指押さえのちヨコナデ。肩：ナデ。	37 クシガキのナデ消しは、頸部のヨコナデ時に指があったものと推定される。
SD-28 21	土師器 S 字甕	① 14.5 ② (2.75)	③ - ④ 口～肩	⑤酸化 ⑥輪積	⑦暗褐色 (Hue10YR 3/3) ⑧暗褐色 (Hue10YR 3/3)	⑨口：ヨコナデ。頸：縦位クシガキのちヨコナデ。肩：縦位クシガキ。 ⑩口：ヘラナデ。頸：ヨコナデ。肩：ヘラナデ。	39
SD-28 22	土師器 S 字甕	① 14.0 ② (3.60)	③ - ④ 口～肩 1/4	⑤酸化 ⑥輪積	⑦暗褐色 (Hue10YR 3/4) ⑧暗褐色 (Hue10YR 3/4)	⑨口：ヨコナデ。頸～肩：クシガキのちナデ消し。 ⑩口：ヨコナデ。頸：指押さえのちヘラナデ。肩：ヘラナデ。	フク土 C
SD-28 23	土師器 S 字甕	① 12.8 ② (2.6)	③ - ④ 口～頸 3/16	⑤酸化 ⑥輪積	⑦暗褐色 (Hue10YR 3/4) ⑧にぶい黄褐色 (Hue10YR 5/4)	⑨口：指ナデ。頸：クシガキのち指消し。 ⑩口：ヨコナデ。指押さえ。頸：ヘラケズリ。	22, フク土 A
SD-28 24	土師器 S 字甕	① 12.0 ② (3.50)	③ - ④ 口～肩 1/8	⑤酸化 ⑥輪積	⑦にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/3) ⑧にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/3)	⑨口：ヨコナデ。頸～肩：クシガキのちナデ消し。 ⑩口：ヨコナデ。頸～肩：指押さえのち斜位ヘラナデ。	194
SD-28 25	土師器 S 字甕	① - ② (10.1)	③ 10.1 ④ -	⑤酸化 ⑥輪積	⑦にぶい褐色 (Hue7.5YR 5/3) ⑧にぶい褐色 (Hue7.5YR 5/3)	⑨腰：縦位ヘラケズリのち縦斜位クシガキ。台：斜位クシガキのち縦位ヘラナデ消し。 ⑩腰：縦位ヘラナデ。底：充てん砂。台：充てん砂のち縦位指押さえナデ。	19, 56, 246, フク土 A 下層, フク土 C 上層
SD-28 26	土師器 台付甕	① 15.0 ② (5.55)	③ - ④ 口～肩 1/2	⑤酸化 ⑥輪積	⑦暗褐色 (Hue10YR 3/3) ⑧暗褐色 (Hue10YR 3/3)	⑨口：ヨコナデ。頸：指押さえのちヨコナデ。肩：縦位ヘラナデ。 ⑩口：ヨコナデ。頸：ヨコナデ。肩：横位ヘラナデ。	25
SD-28 27	土師器 小型台付甕	① 12.8 ② (4.50)	③ - ④ 口～肩 1/16	⑤酸化 ⑥輪積	⑦明褐色 (Hue7.5YR 5/6) ⑧にぶい褐色 (Hue7.5YR 5/4)	⑨口：ヨコナデ。頸：クシガキのちヨコナデ。肩：ヘラナデ。 ⑩口：ヨコナデ。頸～肩：指押さえのちヘラケズリのちナデ。	61
SD-28 28	土師器 小型台付甕	① 14.0 ② (7.40)	③ - ④ 口～肩 1/16	⑤酸化 ⑥輪積	⑦にぶい褐色 (Hue7.5YR 5/4) ⑧にぶい褐色 (Hue7.5YR 5/4)	⑨口：ヨコナデ。頸～肩：クシガキのちナデ消し。 ⑩口：ヨコナデ。頸：指押さえのちヘラケズリのちナデ消し。肩：ナデ。ヨコナデ。	96
SD-28 29	土師器 小型鉢	① 8.05 ② 2.45	③ 2.10 ④ 口～底 1/1	⑤酸化 ⑥輪積	⑦にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/3) ⑧にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/3)	⑨口～胴：ハケ目のちヘラミガキ。底：指押さえ。 ⑩口～胴：指押さえのちヘラミガキ。	241

第10表 SD-28 出土遺物観察表(2)

遺構 No.	種別 器種	①口径 ②器高	③底径 ④残存	⑤焼成 ⑥成形	⑦色調(外面) ⑧色調(内面)	⑨外面調整 ⑩内面調整	備考・接合(採番No.)
SD-28 30	土師器 高坏(坏部)	① 15.5 ② (5.2)	③ - ④ 口~底 3/4	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ 褐色 (Hue7.5YR 4/6) ⑧ 褐色 (Hue7.5YR 4/6)	⑨ 口: ヨコナデ。胴: 縦位ミガキ。 ⑩ 口: ヨコナデ。胴: 縦位ミガキ。	175, 176, 177, フク土C
SD-28 31	土師器 坏	① 13.8 ② (4.5)	③ 14.8 ④ 口~底 1/4	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい赤褐色 (Hue5YR 4/3) ⑧ にぶい赤褐色 (Hue5YR 4/3)	⑨ 口~底: ヨコナデ。 ⑩ 口: ナデ。胴~底: 指押さえ。	99, フク土B上層
SD-28 32	土師器 小型丸底土器	① 12.2 ② (5.60)	③ 6.6 ④ 口~底 5/16	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/4) ⑧ にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/4)	⑨ 口: ヨコナデ。胴: 縦位ナデのちヨコナデ。胴: 指押さえ。底: ヘラケズリ。 ⑩ 口~底: ヨコナデ。底: 指押さえ。	53, 68, 69
SD-28 33	土師器 小型器台	① 8.4 ② (6.0)	③ - ④ 口~台 3/4	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい赤褐色 (Hue5YR 5/4) ⑧ にぶい赤褐色 (Hue5YR 5/4)	⑨ 口: ヨコナデ。頸: 縦ヘラミガキ。台: ヨコナデ。縦位ヘラミガキ。ヨコナデ。 ⑩ 口: ヨコナデ。横位ヘラミガキ。頸: 縦位ヘラミガキ。台: 斜位ハケ目のち指ナデ消し。	245, フク土C上層
SD-28 34	土師器 小型器台	① 8.2 ② (2.45)	③ - ④ 口~胴 1/4	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/4) ⑧ にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/4)	⑨ 口: ヨコナデ。胴: 横斜位ヘラミガキ。腰: 縦位ヘラナデ。 ⑩ 口: ヨコナデ。胴: 横斜位ヘラミガキ。底: 穿孔。	120
SD-28 35	須恵器 环	① 15.6 ② (3.80)	③ 8.4 ④ 口~底	⑤ 還元 ⑥ ロクロ	⑦ 灰褐色 (Hue10YR 6/1) ⑧ 灰褐色 (Hue10YR 6/1)	⑨ 口: ロクロナデ。胴: 木換状ロクロナデ。 ⑩ 口: ロクロナデ。胴: 横斜位ヘラナデ。底: 横位ヘラナデ。	70 高台が付くかどうか不明

SI-1

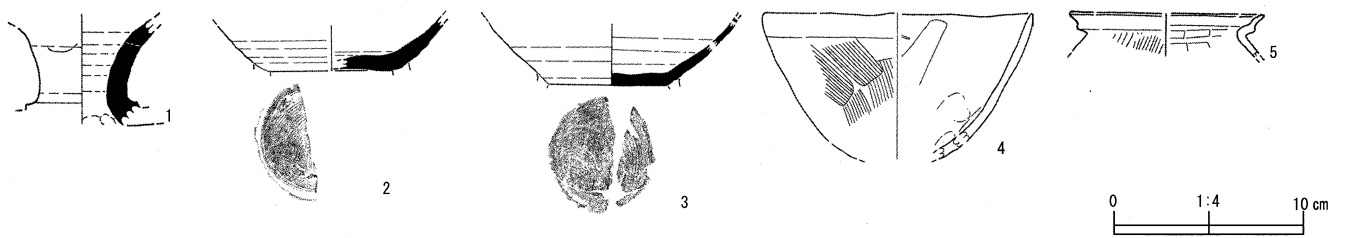


第16図 SI-1 出土遺物図

第11表 SI-1 出土遺物観察表

遺構 No.	種別 器種	①口径 ②器高	③底径 ④残存	⑤焼成 ⑥成形	⑦色調(外面) ⑧色調(内面)	⑨外面調整 ⑩内面調整	備考・接合(採番No.)
SI-1 1	土師器 長脚甕	① 19.5 ② (17.5)	③ - ④ 口~胴	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ 赤褐色 (Hue5YR 4/6) ⑧ 赤褐色 (Hue5YR 4/6)	⑨ 口~頸: ヨコナデ。胴: 縦位ヘラケズリ。左→右、下→上の施順。 ⑩ 口~頸: ヨコナデ。胴: 横位ヘラナデ。右→左、下→上の施順。	SD-21 20, 24, 25, 26, フク土下層, SI-1 25, 26, 27, 28, 29, フク土A, フク土A下層
SI-1 2	土師器 長脚甕	① - ② (13.0)	③ 6.0 ④ 胴~底	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ 暗褐色 (Hue7.5YR 3/3) ⑧ 褐色 (Hue7.5YR 4/3)	⑨ 胴~底: ヘラケズリ。 ⑩ 胴: ハケナデ。ハケ目。腰~底: ヘラナデ。	12, 13, 19, 21, 23, SD-28 フク土上層
SI-1 3	須恵器 坏	① 12.6 ② 3.75	③ 6.0 ④ 口~底 1/8	⑤ 還元 ⑥ ロクロ	⑦ 灰黄色 (Hue2.5Y 7/2) ⑧ 灰黄色 (Hue2.5Y 7/2)	⑨ 口: 強いヨコナデ(指)。胴: ナデ。ハケ目のちナデ消し。底: 回転糸切り(右)。 ⑩ 口: ナデ。胴: ロクロナデ。底: ロクロナデ。	36, 37
SI-1 4	土師器 S字甕	① - ② (8.8)	③ 8.8 ④ 底~高台	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい褐色 (Hue7.5YR 6/4) ⑧ にぶい褐色 (Hue7.5YR 6/4)	⑨ 口: クシガキ。 ⑩ 底: ハケ目。台: ヘラナデ。	3 胎土 赤色粒を含む。充てん砂なし。
SI-1 5	土師器 S字甕	① - ② (2.70)	③ - ④ 底~台	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/3) ⑧ にぶい黄褐色 (Hue10YR 6/3)	⑨ 口: クシガキ。クシガキのちヘラナデ消し。 ⑩ 台: ヘラナデ。台: 充てん砂。指押さえ。	16
SI-1 6	土師器 高坏	① 13.4 ② (4.2)	③ - ④ 口 1/8	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ 赤褐色 (Hue5YR 4/6) ⑧ にぶい赤褐色 (Hue7.5YR 6/4)	⑨ 口: ミガキ。 ⑩ 口: ハケ目のちミガキ。	4
SI-1 7	土師器 小型器台	① 7.6 ② (5.30)	③ - ④ 口~台	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ 赤褐色 (Hue5YR 4/6) ⑧ 赤褐色 (Hue5YR 4/6)	⑨ 口: ヨコナデ。頸: 指押さえのちヨコナデ。台: ヘラナデ。 ⑩ 口: ヨコナデ。ヘラナデ。頸: ヘラケズリ。台: ヘラケズリ。	フク土A

第3面遺構外



第17図 第3面遺構外出土遺物図

第12表 第3面遺構外出土遺物観察表

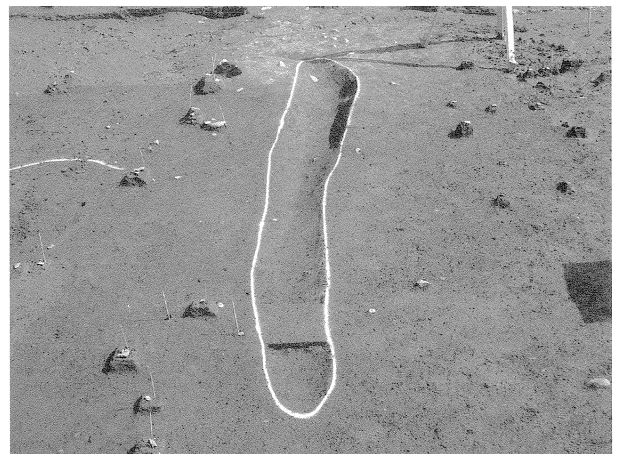
遺構 No.	種別 器種	①口径 ②器高	③底径 ④残存	⑤焼成 ⑥成形	⑦色調(外面) ⑧色調(内面)	⑨外面調整 ⑩内面調整	備考・接合(採番No.)
遺構外 1	須恵器 葷	① - ② (9.59)	③ - ④ 頸部のみ	⑤ 還元 ⑥ ロクロ	⑦ 褐灰色 (Hue10YR 4/1) ⑧ 褐灰色 (Hue10YR 4/1)	⑨ 胴: ロクロナデ。ヘラナデ。 ⑩ 胴: ロクロナデ。	1
遺構外 2	須恵器 甕	① - ② (2.85)	③ 3.5 ④ 胴~底 1/3	⑤ 還元 ⑥ ロクロ	⑦ 褐色 (Hue7.5YR 7/6) ⑧ にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/4)	⑨ 胴: ロクロナデ。底: 回転糸切り(右)。 ⑩ 胴: ロクロナデ。	5
遺構外 3	須恵器 甕	① - ② (3.60)	③ 6.35 ④ 胴~底 2/3	⑤ 還元 ⑥ ロクロ	⑦ 灰黄色 (Hue2.5YR 7/2) ⑧ 灰黄色 (Hue2.5YR 7/2)	⑨ 胴: ロクロナデ。底: 糸切りのちナデ。 ⑩ 胴: ロクロナデ。	9
遺構外 4	土師器 鉢	① 14.1 ② (7.6)	③ - ④ 口~胴	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ 褐色 (Hue5YR 6/8) ⑧ 褐色 (Hue5YR 6/8)	⑨ 口: ヨコナデ。胴: 縦位ハケ目。 ⑩ 口: 縦位ヘラナデ。胴: 縦位ヘラナデ。指押さえ。	12, 13, 14, 15, 16
遺構外 5	土師器 S字甕	① 10.2 ② (2.10)	③ - ④ 口~肩	⑤ 酸化 ⑥ 輪積	⑦ にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/2) ⑧ にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/2)	⑨ 口: ヨコナデ。頸: クシガキ。 ⑩ 口: ヨコナデ。頸: ヘラナデ。肩: ヘラケズリ。	



第3面空撮(上が北)



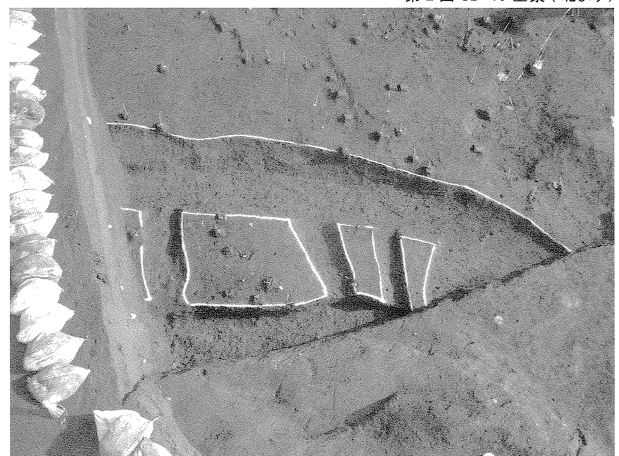
第1面全景(西より)



第2面SD-19全景(北より)



第2面SD-13~18全景(北より)

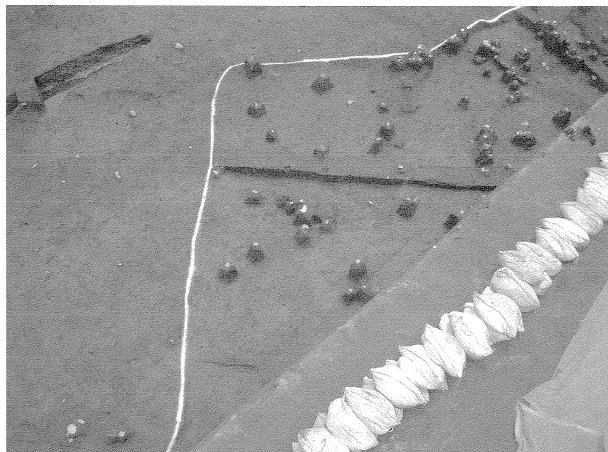


第2面SD-20~25全景(北より)

写真図版 2



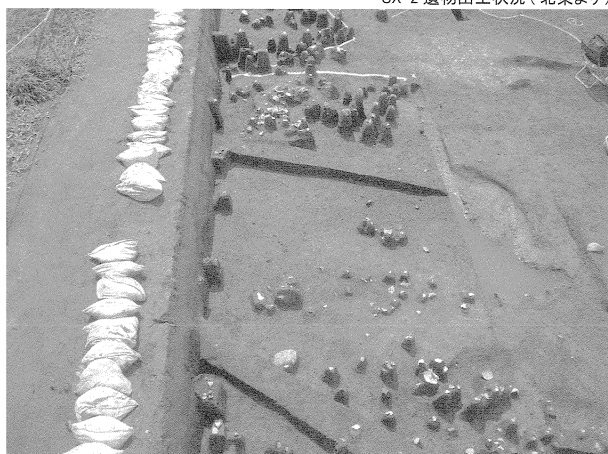
第3面遺構検出状況(東より)



SX-2 遺物出土状況(北東より)



SI-1 遺物出土状況(北東より)



SX-3 遺物出土状況(東より)



SI-1 全景(北東より)



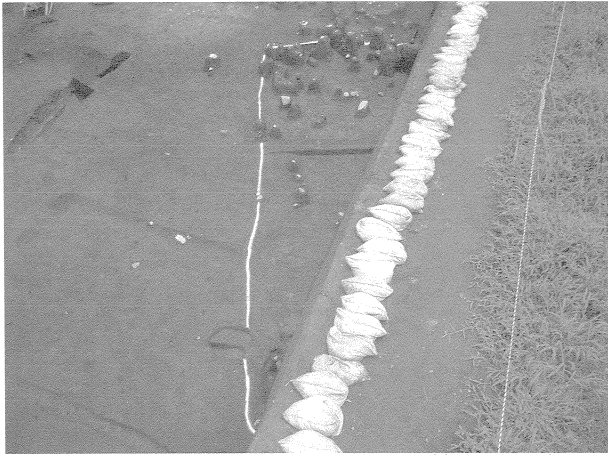
SX-3 No.1出土状況(北より)



SX-1 遺物出土状況(北より)



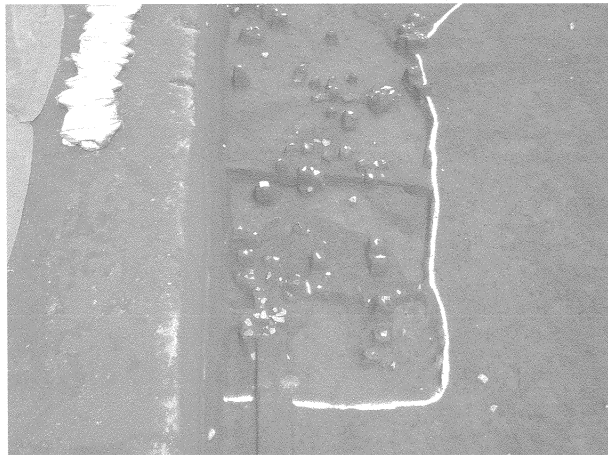
SX-3 No.2~7出土状況(南より)



SX-4 遺物出土状況 (南西より)



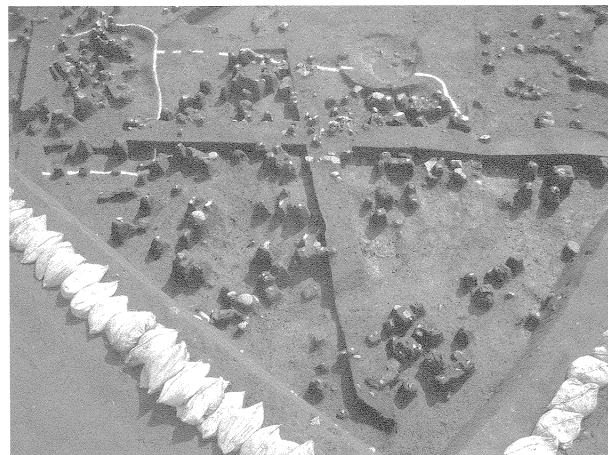
SD-28 No.1 出土状況 (北東より)



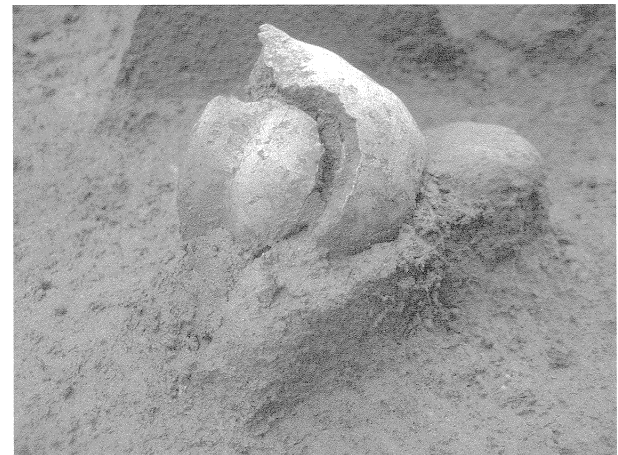
SX-5 遺物出土状況 (西より)



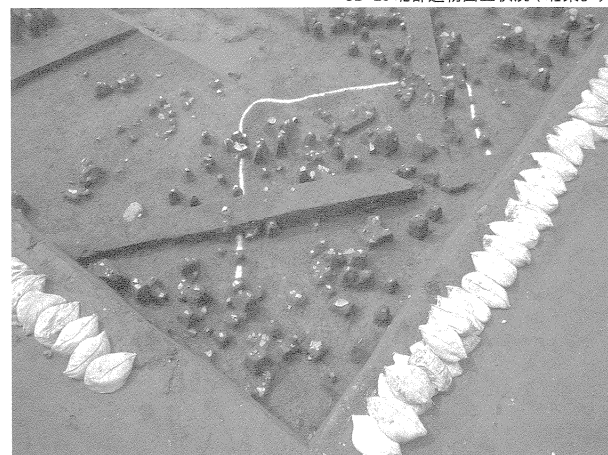
SD-28 No.6 出土状況 (東より)



SD-28 北部遺物出土状況 (北東より)



SD-28 No.29 出土状況 (北より)



SD-28 南部遺物出土状況 (南東より)



SD-28 全景 (北より)

写真图版 4

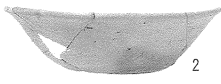
SD-14



SD-18



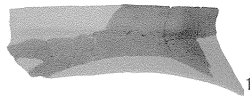
SD-21



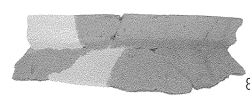
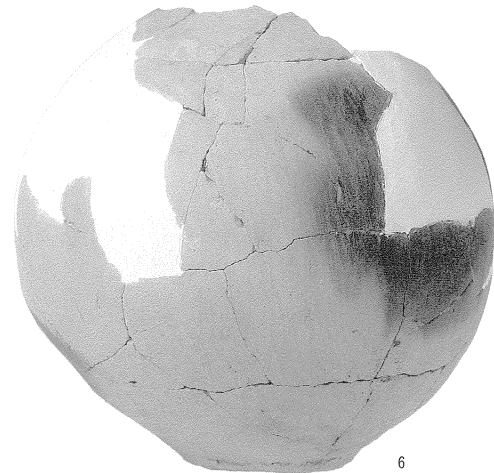
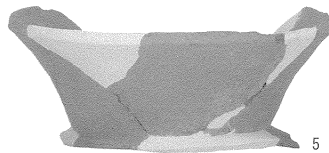
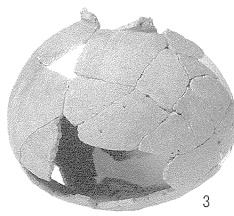
SX-1



SX-2

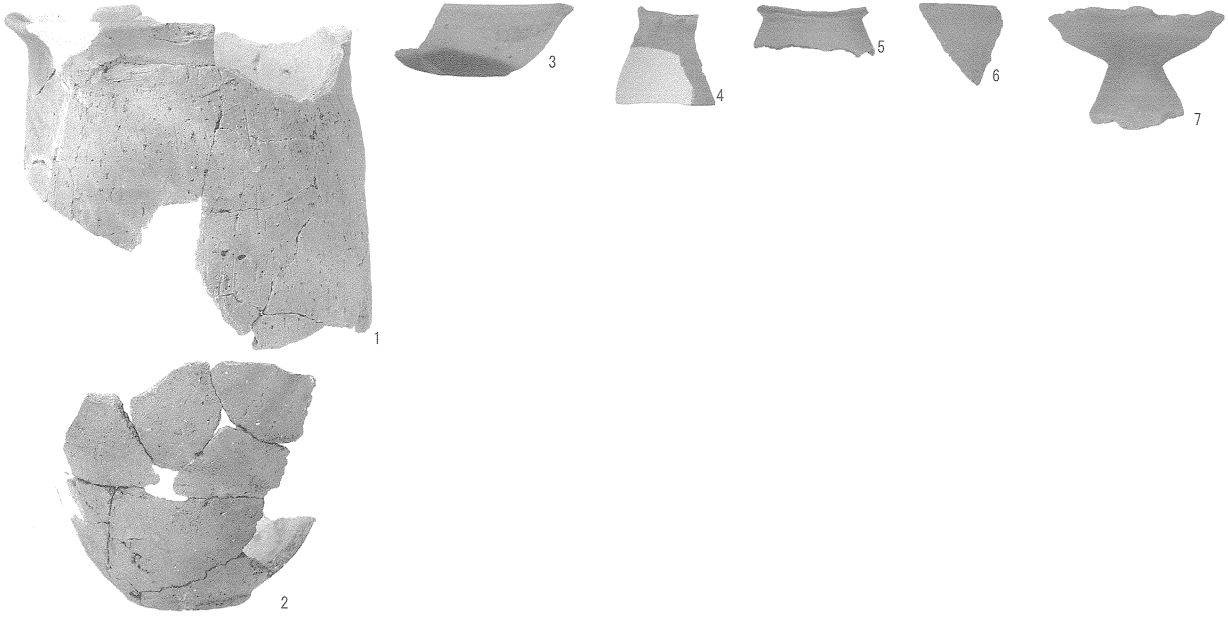


SX-3



写真図版 6

SI-1



第3面遺構外



発掘調査報告書抄録

ふりがな	な	なかいまちいっちょうめいせき2
書名	名	中居町一丁目遺跡2
副書名	名	事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	次	
シリーズ名	名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	番号	第255集
編著者名	名	村上章義・向出博之・倉田 功・田口一郎
編集機関	関	高崎市教育委員会
所在地	地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1
発行年月日	日	平成22年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
なかいまち 中居町 いっちょうめ 一丁目	たかさし 高崎市 なかいまちいっちょうめ 中居町一丁目 ばんち 9番地2	102024	443	36°19' 15.456" (36.32096)	139°2' 5.64" (139.0349)	2009.06.08 ～ 2009.07.10	46.2 m ²	事務所 建設

所収 遺跡名	種別	主な 時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中居町 一丁目 遺跡 {第2次 調査}	集落 他	古墳	溝 1条	S字甕、直口壺、小型丸底土器、他 S字甕、他 長胴甕、他	6世紀末～7世紀初め 9世紀後半～10世紀前半 As-B降下前(12世紀初め) 土壌断面のみの確認 As-B降下以降
			竪穴状遺構 5基		
			竪穴住居跡 1軒		
			土坑 3基		
			ピット 3基		
		平安	溝 7条	須恵器壺・坏・高台皿、他	
			土坑 2基		
			溝 9条		
			溝 1条		
			近世 時期不明		
溝 11条					

高崎市文化財調査報告書第255集

中居町一丁目遺跡2—事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—
正 誤 表

2010年4月30日現在

ページ数		誤	正
3頁	第2図 注記	ⅢC	ⅢC4
4頁	第4図	A	B
	SD-7・10断面図	A'	B'
5頁	第4図 SD-3 SP.B ⅢC3 (7)	ⅣA直上	ⅣA層直上
	第4図 SD-5・6	I	I A
		I	I A落ち込み部分
		II	II A
	III	III A	
6頁	第5図 SK-1断面図	(土坑外)	V A
	第5図 SK-1断面図注記	2	V A
9頁	第6図 土層注記	SX-2・5 灰層 2層の注記	SX-5 SP.C 2層の注記
12頁	最終行	↓	↓
13～18頁	第1～12表	①口径	①口径
13頁	第2表 No.1 備考・接合(採番) 第3表 No.	I～3行	↓
		(空白)	フク土A
		1	6
		2	4
		3	2
		4	1
15頁	第8表 No.	3	4
		4	3
18頁	第12表 No.5 備考・接合(採番)	(空白)	第3面1
抄録	土坑遺構	溝 7条	溝 6条

高崎市文化財調査報告書 第255集
中居町一丁目遺跡2
—事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

平成22年3月25日印刷

平成22年3月31日発行

編集 高崎市教育委員会
発行 高崎市教育委員会
印刷 上毎印刷工業株式会社